

青少年のためのUNEP (国連環境計画)機関誌



TUNZA



for young people · by young people · about young people

日本語版 2012.Vol.3 (通巻29号)

スポーツと環境

Sport
and the
environment

尊敬 Respect
友情 Friendship
卓越 Excellence



TUNZA

インターネット上でも
見ることができます。

英語版→ www.unep.org

日本語版→ www.ourplanet.jp

<英語版> Vol.10 No.1

United Nations Environment Programme (UNEP)

PO Box 30552, Nairobi, Kenya

Tel (254 20) 7621 234

Fax (254 20) 7623 927

E-mail unepubb@unep.org

www.unep.org

Director of Publications Nick Nuttall

Editor Geoffrey Lean

Special Contributor Wondwosen Asnake

Youth Editor Karen Eng

Nairobi Coordinator Naomi Poulton

Head, UNEP's Children and Youth Unit

Theodore Oben

Circulation Manager Mohamed Atani

Design Edward Cooper, Ecuador

Production Banson

Cover image Mario Mencacci

Printed in Malta

The contents of this magazine do not necessarily reflect the views or policies of UNEP or the editors, nor are they an official record. The designations employed and the presentation do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of UNEP concerning the legal status of any country, territory or city or its authority, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries.

<日本語版> 通巻29号

編集兼発行人:宮内 淳

編集・発行所:公益財団法人地球友の会

東京都中央区東日本橋2-11-5 (〒103-0004)

電話03-3866-1307 FAX 03-3866-7541

翻訳者:株式会社HORSE PARK INTERNATIONAL

八島玲子/赤樹結香/山田真琴/松井光代/佐藤泉

制作:(株)セントラルプロフィックス

印刷・製本:(株)久栄社

用紙提供:三菱製紙(株)

協力:東京都中央区

Printed in Japan

*「TUNZA」日本語版は、日本語を母国語とする人々のために国連環境計画(UNEP)に代わって出版するもので、翻訳の責任は公益財団法人地球友の会にあります。
*本誌の無断複写(コピー)は、著作権法上での例外を除き禁じられています。

この日本語版は、FSC® 認証紙を使用し「植物油インキ」を使い、ISO14001 認証工場において「水なし印刷」で印刷しています。

また、省資源化(フィルムレス)に繋がるCTPにより製版されています。



この冊子を作成した際に関わった1部あたりのCO₂ 185gは、カーボン・オフセット・ジャパン(www.co-j.jp)を通じてオフセット(相殺)され、地球温暖化防止に貢献します。

UNEPは

環境にやさしいやり方を、
世界中で、そして同時に自分たち
自身の行動の中で推進しています。

本誌は持続可能な形で管理された森林からの
100%無塩素漂白パルプ紙を使用し、植物ベースの
インクやその他環境に配慮した手法を採用
しています。我々の方針は、流通にともなう二
酸化炭素排出量を低減することです。

もくじ

～「^{ツンザ}TUNZA」とは、スワヒリ語で“愛をこめて大切にあつかう”という意味です～

はじめに	3
さあやってみよう!	4
尊敬、友情、卓越	5
持続可能な開発とオリンピック	6
ひとつの地球ーオリンピック	9
試合の燃料補給	11
山を大事に	12
環境を守るスター選手たち	14
自分自身に挑戦	15
環境にやさしいスポーツウェア	16
もっと環境にやさしい試合を	18
狩りというスポーツの伝統	20
オリンピック7つのレガシー(遺産)	22
和光市の環境への取り組み	24
三菱東京UFJ銀行の環境への取り組み	26
ビッグ・アイデア	28

TUNZAの最新ニュースは

<http://tunza.mobi>

またはフェイスブック

www.facebook.com/TUNZAmagazine へ



Partners for Youth
and the Environment



UNEPは、ドイツに本社をおくヘルスケア・
農作物保護・先進素材科学の多国籍企業
バイエルと連携して、若者の環境意識を高
め、子どもたちや青少年が世界的に環境問
題に関心を持ってくれるよう活動しています。

2004年に締結されたUNEPとバイエルの
パートナーシップ契約は、2007年および
2010年に更新され、2013年まで延長され
ています。それに基づいて両者の協力関係
のもとで実行されているプロジェクトには、
以下のものがあります。

機関誌「TUNZA」;国連子供環境ポスター
原画コンテスト;UNEP・TUNZA国際青
年/子供会議;アフリカ、アジア太平洋、ヨー
ロッパ、ラテンアメリカ、カリブ、北アメリカ、
西アジアにおける青年環境ネットワーク;バ
イエル青少年環境使節プログラム;東ヨー
ロッパでの写真コンテスト「エコロジー・イン
フォーカス」

UNEPとバイエルの長期にわたるパート
ナーシップは、お互いにとって手本となる官
民パートナーシップになりました。

未来の環境は子どもたちの手に



Abdikadir Aden

老いも若きも、誰もが環境保全を日常の活動の一部にすることができます。しかしわたしたちは、それを実現する最大の担い手が子どもたちであることを忘れがちです。

学校で、木の苗を枯らさないように中心になって活動しているのは小さな子どもたちです。一人一人が自分の木を持ち、水やりの仕事が割り当てられています。こうして8年間やそれ以上の期間を小学校で過ごし（編集部注／ケニアの小学校は8年制）、子どもたちが卒業したあとには、未来の地球への贈り物が残されています。

このような活動は、子どもたちが若者として——たとえ10歳に満たなくても——リーダーシップを発揮し、将来、自分自身の環境を見つめ、きちんと責任を取れるようになるためのいい機会を与えてくれます。地球温暖化や気候変動など、世界の環境問題に取り組むためのさまざまな知識を身につけることができるのです。

わたしは、小さな子どもたちこそ、母なる自然を最も上手に守ることができると考えています。まずは子どもたちが望むように、リーダーシップを発揮できるようにすることです。そうすれば、彼らはリーダーの役割をきちんと果たし、若者だけでなく、大人にとってもお手本となることでしょう。

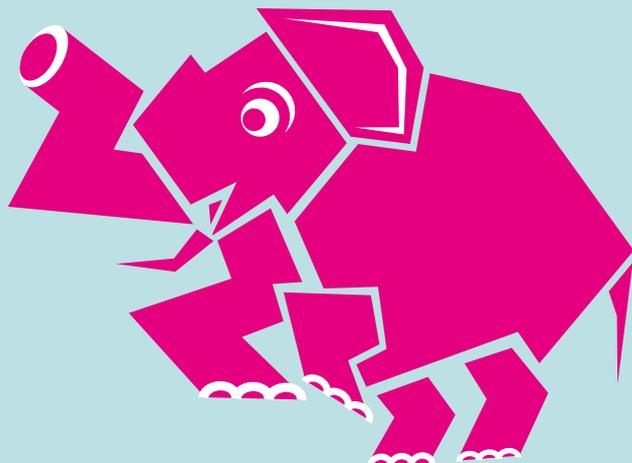
環境メッセージを伝える上で、特に環境意識を高めるポスターの中で、子どもたちにどれほど大きな効果があるか、皆さんは気づいているでしょうか？ 彼らは社会に大きな警告を発することができます。だから、小さなエコ活動をするたびに、子どもたちのことを思い浮かべましょう。そうすることで、子どもたちによりよい未来を確実に与えることができるのです。

子どもたちのことを忘れないで、いつも心に留めていきましょう。

Abdikadir Aden / 在ケニア Tunza エコ世代地域大使

はじめに

EDITORIAL



「健全な精神は健全な身体に宿る」という言葉は、オリンピックそのものと同じくらい古くからあります。近代オリンピックの創立者であるクーベルタン男爵は、もちろんこの言葉をよく知っていました。彼は若者が運動をしなくなるのを心配して、オリンピック競技を復活させようと思ったのです。今、座ってばかりでこれまで以上に動かなくなったわたしたちの生活スタイルや、ますます増える肥満の弊害を見たら、男爵は何と思うのでしょうか？

今日、オリンピック・ムーブメントとUNEPは、この言葉を「健全な精神と健全な身体は健全な環境に宿る」と言い換えようとしています。この3つはつながっています。誰もが自分の潜在能力を発揮するには、きれいな空気、きれいな水、栄養のある食物が必要です。社会が繁栄し発達しようとするれば、健康で元気な人々が必要です。そして、走ったり、自転車をこいだり、スキーをしたり、サッカーの試合をしたりする以上に、自然との結びつきを得る方法はあるでしょうか？

4年に1度開かれるオリンピック大会は、卓越性を競う祭典です。そこでは、世界最高のスポーツ選手たちがほんの数週間だけ一堂に会し、友情と尊敬——このふたつもオリンピックの重要な価値です——に満ちた雰囲気の中で競技を行います。しかしまた、オリンピック・ムーブメントは、この大会を、世界最大のスポーツ大会の発展と運営の優秀さを紹介する機会でもあると考えています。ここでは、スポーツ選手だけではなく、何千人もの運営委員やコーチ、何百万人もの観客、そしてテレビで競技を見守る何十億人もの人々が関わっています。今では、大会のインフラの建設や開発はできるかぎり環境にやさしいものにする、交通機関から食事にいたるまで、大会施設は環境に十分配慮すること、大会は今後何年間も持続できる資産を残すこと、などがオリンピックの使命に含まれるようになりました。

たとえ懂れることがあっても、わたしたち全員がオリンピック選手をめざせるわけではありません。でも、ちょっと待ってください。本当にそうでしょうか？ オリンピックの理想はスポーツでの卓越性を称えるだけのものではありません。たしかにクーベルタン男爵は、よく戦うことは勝つことより大切だと考えていましたが、それはスポーツだけでなく、生活においても同じです。3つのオリンピックの価値——友情、尊敬、卓越——こそ、環境と持続可能な開発に対するわたしたちの関心を表明するのに、最適な方法ではないでしょうか？

さあ やってみよう! Give it a spin!

卓越、尊敬、友情というオリンピックの価値に示されるように、スポーツには、体の健康状態と活動的かつ健康的なライフスタイルが何よりも大事だ。またナミビア出身のオリンピック選手で200メートル走の世界選手権優勝者、フランキー・フレデリクスが言ったように、「スポーツは、若者がトラブルに巻き込まれないようにするのに、特にトラブルの多い地域で役立つ。それに肥満の問題に取り組むのにも役立つ。人はわかち合うことを学び、勝敗への対処方法を学ぶ。それはとても価値ある授業なのだ」。

しかし、体の健康を保つためにスポーツ選手になる必要はないし、健康で幸福であるために日常活動は欠かせない。現在、心臓病や糖尿病などの非感染性疾患は、世界中の障害や早死にの最大の原因だが、



Blaze/Urban Culture Jam/Brian Slater/www.blazeonline.org.uk

それを予防する一番重要な方法は定期的な運動だ。たとえば世界保健機関（WHO）は、心臓病のリスクを下げるために、ほぼ毎日30分以上運動するよう勧めている。だが、何も運動にお金をかける必要はない。ウォーキング、ランニング、サイクリング、インラインスケート、ローラースケート、スケートボード、ヨガ、ダンスなど、お金

をかけず、炭素排出量も少なく、健康を保てる方法はたくさんある。そればかりか、もっと意欲的な人には、ウィンドサーフィン、ロッククライミング、スキー、体操、漕艇、スノーボード、乗馬、一輪車などなど……まだいくらでもある！



Pat Young/lululemon athletica 2011/flickr

心を元気に

あらゆる屋外活動は、精神衛生に役立つことをご存じだろうか？ 研究によると、ウォーキング、ガーデニングやサイクリングなど、自然の中で軽く体を動かすだけでも、自己評価や自信が高まり、不安やうつ状態が減るなど、精神衛生にプラスの効果があるという。そしてもちろん、太陽がゆううつな気分を吹き飛ばしてくれるのは周知のとおり。さらにすごいことに、ビタミンDが認知機能を改善することも明らかになったのである。

健康な生活、健康な食事

食べるものが十分でない人の数は世界で増えているというのに、座ってばかりのライフスタイルや間違った食事のとりすぎで肥満になるケースが、あちこちで見られている。WHOは、2015年までに世界の23億人の成人——われわれの3人に1人——が体重超過となり、そのうち7億人あまりが肥満になると予想している。肥

満は世界の2,000万人の子どもたちにも影響を与えている。活動的な生活を営む能力が弱まり、寿命を縮めるような状況が、心臓病や脳こうそくや糖尿病につながっている。この大変な危機的状況に、米国糖尿病学会は、糖尿病にかかる人の数は2030年までに今の倍以上に増えると述べている。地球の健康のために賢く食べることは大切だが、それだけでなく、自分の体の健康のためにも大切だ。健康な生活



MShades/flickr

のための一番いい食事方法は、穀物、野菜、ナッツ類、果物、好きな動物性食品も、さまざまな食物をバランスよく摂ることである。

尊敬、 友情、卓越



Respect, friendship, excellence

元ハンガリー大統領でオリンピックの金メダリスト（フェンシングのチーム・エベ、1968年と1972年）でもあるパル・シュミット（PÁL SCHMITT）氏は、国際オリンピック委員会にスポーツと環境委員会を創設し、その委員長を務めている。TUNZAは、環境保護や持続可能な開発の推進に、オリンピック・ムーブメントの果たす役割について、同氏に話を聞いた。

TUNZA: オリンピックやスポーツ全般を考えたとき、真っ先に思い浮かぶのは、環境や持続可能性ではありませんよね。両者にはどういうつながりがあるのですか？

シュミット: わたしたちがすることはすべて健全な環境があってこそですが、アスリートにとっては特にそうなのです。アスリートにはトレーニングの場所、栄養のある食物、きれいな空気、きれいな水が必要です。そして実際には人間のすべての行動、たとえばスポーツ施設を建設することも、その施設へ行くことも、あるいはただ走ったりボールを蹴ったりするだけでも、あらゆるものが環境に影響を与えています。

しかし、それはスポーツに限ったことではありません。近代オリンピック大会の創立者であるピエール・ド・クーベルタン男爵は、スポーツを「社会や経済発展を推進する、非常に大きな力と潜在力を持った」促進剤であると考へ、スポーツは「人間の尊厳保持に重きを置く平和な社会の構築の促進をめざす、人類の調和のとれた発達」の実現の手助けにならなくてはいけないと考えていました。だからオリンピック・ムーブメントは、基本的に持続可能性を重視しているのです。

TUNZA: オリンピアン——大会競技者たち——も、役に立つことができると思いますか？

シュミット: わたし自身オリンピック選手として、大会で競技することの素晴らしさを知っています。アスリートは、活動的なライフスタイルと正しい食事にどんなメリットがあるか知っています。また彼らはドラッグ、アルコール、喫煙などの危険性も熟知しています。今日のスター選手たちは、アスリートであると同時にマスコミの有名人もあるので、人々は彼らの言う言葉をよく聞いています。ですから、彼らは人々の手本としての責任を重く受け止めなければいけません。そのためわたしたちオリンピック・ムーブメントの関係者は、彼らがオリンピックの価値である尊敬、友情、卓越を多くの人に伝えられるよう協力しているのです。

TUNZA: これらの価値を持続可能な開発のために用いることを、どう思いますか？

シュミット: とても重要なことだと思います。尊敬とはただ人に対する尊敬だけでなく、わたしたち全員が依存しているこの自然環境全体を尊敬するということです。友情とは、どこの誰であろうと関係なく、また未来の世代も含めた、すべての人間に対する友情です。それから卓越ですが——ピエール・ド・クーベルタンは「人生において重要なことは勝利ではなく努力であり、一番大切なことは相手を打ち負かすことではなく、しっかり戦うことだ」と言っています。また忘れてはいけないことですが、スポーツの成果や記録と同じく、今日は優れているとされることでも、来年にはおそらく普通のことになっているでしょう。わたしは、尊敬、友情、卓越は、持続可能性の基本要素だと思うのです。



Szulics Miklós

TUNZA: 特に若者が参加するようにしているのでしょうか？

シュミット: その通りです。たとえばユースオリンピック大会（YOG）を開くことにしたのも、そのためです。第1回ユースオリンピック夏季大会と冬季大会は、シンガポール（2010年）とオーストリアのインスブルック（2012年）でそれぞれ開催しました。YOGのイベントも素晴らしいものでしたが、同時に実施したのが文化教育プログラム（CEP）です。これは、コミュニケーションスキルから持続可能性に関するさらに多くの知識まで、さまざまな新しいアイデアを選手に紹介するものです。シンガポールではUNEPと共同で、再生可能エネルギーのプログラムを開催し、インスブルックでは脆弱な山岳環境の保護について——ウィンタースポーツにとっては重要ですからね——セミナーを開きました。CEPへの反応がとてよかったです。すべてのオリンピック大会で同じようなイベントを開催することを検討しているところです。

TUNZA: オリンピック・ムーブメントには200カ国あまりの国内オリンピック委員会、35の国際スポーツ連盟、オリンピック大会開催関係者、そして何百万人ものアスリートが参加しています。こういった人々に、持続可能性のメッセージをどうやって伝えるのでしょうか？

シュミット: わたしたちの活動は、すべて1999年に初めて発表された「オリンピックムーブメント アジェンダ21」に基づいて行われています。これは国連の「アジェンダ21」のように、スポーツのあらゆる側面に持続可能性を取り入れるための、活発な関連行動計画です。また、スポーツ団体が、「オリンピックムーブメント アジェンダ21」を具体的な行動やプログラムとして実施するための詳しい説明書として、「スポーツ、環境、持続可能な開発に関する指針」も出しています。これらは、大志あふれるオリンピック選手だけのものではなく、世界中のあらゆるレベルのスポーツ選手や競技関係者のために作成されたのです。

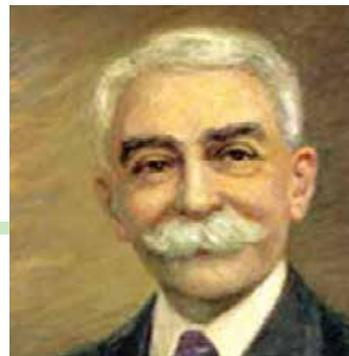
また、UNEPと共同で、「スポーツと環境」会議を1年おきに開催しています。これらの会議には、オリンピック・ムーブメントに関わるさまざまな組織から人が集まり、互いの体験をわかち合い、学び合い、これからの行動や新しい問題について考えます。また、地域ごとに開催している「スポーツと環境」セミナーも、それと同じくらい重要です。これは「地球規模で考え、地域から実践しよう」をテーマに、同じ背景、同じ問題を持ったスポーツ選手が一堂に集まり、持続可能性をさまざまな行動に取り込む実用的な方法を策定する場となっています。

しかし、何といっても大切なことは、皆がそこへ来て、持続可能性を取り入れる活動に参加してくれることです。

持続可能な開発とオリンピック

(1972年~2012年) Sustainable development and the Olympics (1972-2012)

1890年代、近代オリンピック・ムーブメントの創設者である**ピエール・ド・クーベルタン**男爵(右)は、スポーツを社会・経済的な発展を成しとげるための重要な方法と見なし、スポーツは「人類の調和のとれた発達」を達成すると同時に、「人間の尊厳保持に重きを置く平和な社会の構築」を推進するものであると考えた。



この年表は、持続可能な開発という新しい世界目標、オリンピック・ムーブメント、そしてピエール・ド・クーベルタンの独創的なビジョンの共通点を示すものである。

1972



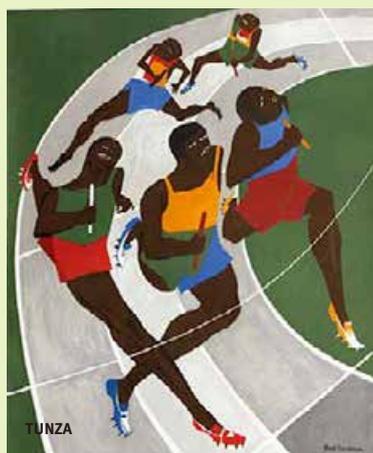
ローマクラブが、増え続ける世界人口と有限な天然資源について懸念を表明した「成長の限界」を発表。

119カ国が出席した**国連人間環境会議**で「祖先から受け継いできた野生生物とその生息地は、今日種々の有害な要因により重大な危機にさらされており、人はこれを保護し、懸命に管理する特別な責任を負う」と宣言。また、この会議で**国連環境計画(UNEP)**を設立。



München 1972

世界各国のオリンピック委員会が、**ミュンヘン・オリンピック**で、オリンピック公園に各国から持ち寄った低木を植樹。



1987

持続可能な開発という概念が、**ブルントラント委員会**の報告書「地球の未来を守るために」に登場。



1992

国連環境開発会議 [リオ92]で、21世紀にまたがる環境開発問題に、バランスの取れた統合的なアプローチを行うための青写真である**国連「アジェンダ21」**を採択。

バルセロナオリンピックの期間中、各スポーツ連盟や各国のオリンピック委員会は、地球をより安全な場所にすることを誓った「地球への誓い」に署名。



1994

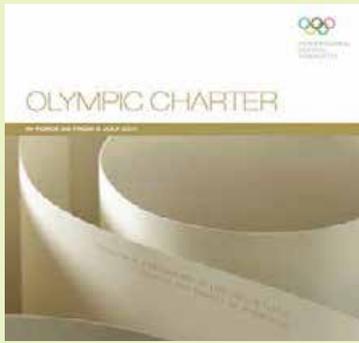
国連国際スポーツとオリンピックの理想年では、スポーツと文化を通じて世界の若者が理解を深めるよう働きかけた。

リレハンメル冬季オリンピック大会の年。環境問題が幅広く注目され、環境に対する配慮を明言した初めての大会となった。



1995

オリンピック・ムーブメント全体を通じて環境統治の進展と持続可能な開発を方向づける組織として、**国際オリンピック委員会にスポーツ環境委員会**を設置。



1996

「オリンピック憲章」に、スポーツ、文化と並んで、環境をオリンピズムの第三の柱とすることが書き加えられる。

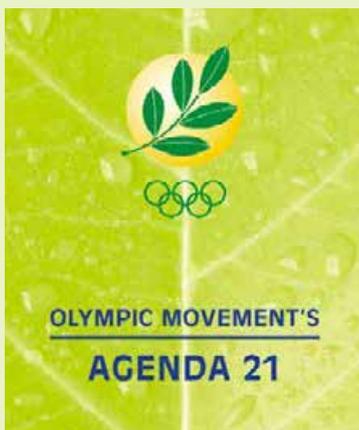
1998

「自然との調和」をテーマとした長野冬季オリンピック大会開催。初めて2,000人以上のアスリートを迎えた冬季オリンピックとなる。



1999

国連の「アジェンダ21」をスポーツにあてはめた「オリンピック・ムーブメント・アジェンダ21——持続可能な開発のためのスポーツ」を発表。



2000

シドニー・オリンピックでは、大会のあらゆる側面に環境への配慮を盛り込んだ。環境にやさしいオリンピック村の建設により、環境配慮型の住宅技術は費用が高く、大規模な実施は無理だという通説をくつがえした。



2001

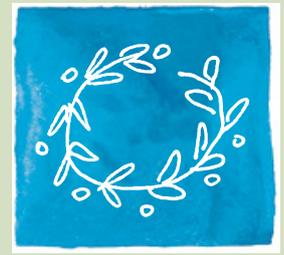
オリンピック関係者と一般のアスリート向けに、クリーンな環境の重要性を説いた「環境のチャンピオンになろう」という冊子を発行。



2002

南アフリカのヨハネスブルクで開催された国連持続可能な開発サミットで、「アジェンダ21」の実施に対する国際社会の公約を再確認し、「慢性的飢餓、栄養不良、外国による占領、武力衝突、麻薬密売問題、組織犯罪、汚職、自然災害、武器密輸取引、人身売買、テロリズム、不寛容と人種的・民族的・宗教的及びその他の扇動、外国人排斥、並びに特に HIV / AIDS、マラリア及び結核を含む風土病、伝染性・慢性の病気を含め、人々の持続可能な開発にとって深刻な脅威となっている世界的な状況」に重点的に取り組むことで合意した。

国際オリンピック委員会 (IOC) は、開発と平和のためのスポーツ国連機関間タスクフォースとパートナーシップを締結。



ATHENS 2004



2004

オリンピックを再びギリシャで開催。アテネの輸送インフラが一新され、交通の流れがよくなり、大気汚染が大幅に減少し、考古学遺跡の自然遺産が守られるようになった。

2005

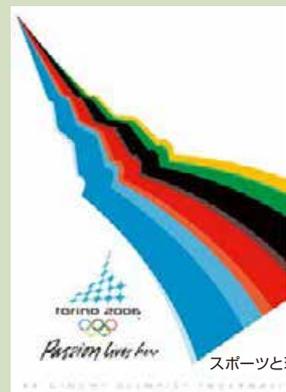
すべてのスポーツが「オリンピック・ムーブメント・アジェンダ21」の勧告を具体的な行動や実用的なプログラムとして実施できるようにするための説明書「スポーツ、環境、持続可能な開発に関する指針」を、IOCが発行。



torino 2006

2006

トリノ冬季オリンピック大会の準備期間中、大会期間中、そして大会の後も、環境が大きく取り上げられる。組織委員会は UNEP と戦略的同盟を結び、大会とそのレガシー（遺産）に関連した環境プロジェクトの実施を支援し協力した。



2007

国際オリンピック委員会がUNEP「地球大賞 (Champion of the Earth Award)」を受賞。持続可能な開発推進における影響力と環境保護におけるリーダーシップが評価された。

2008

オリンピック大会の準備として、中国当局は北京の慢性的な汚染を改善し、よりクリーンで緑の多い街づくりに取り組み、インフラ整備、風力・太陽光発電の導入、交通規制、禁煙などによって生活環境を大幅に改善。大規模な植樹運動も実施された。UNEPはオリンピック大会の環境パフォーマンスについて、初めて独自の評価を行った。



Beijing 2008
TM
Olympic rings logo

2009

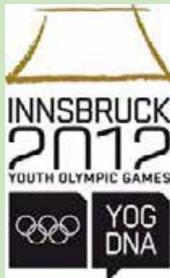
国連総会がIOCを正式なオブザーバーとして認定。



2010
vancouver 2010
Olympic rings logo

バンクーバー冬季オリンピック大会は、おもなスポーツ大会を開催する各団体が、すべての活動に持続可能性を取り入れ、監視、管理、報告をするためのさまざまな方法を開発し、真に持続可能な競技大会についての新たな基準を打ち立てた。

第1回ユースオリンピック夏季大会をシンガポールで開催。文化と価値に重点を置いたイベントで、国際多種スポーツ大会の仲間入りをした。



2012
Innsbruck 2012 Youth Olympic Games logo

第1回ユースオリンピック冬季大会をオーストリアのインスブルックで開催。世界60あまりの国々から、1,000人以上の若いアスリートが参加し、全員が文化・教育プログラムにも出席し、オリンピックの価値、幸福と健康な生活、社会的責任、環境問題についての認識を高めた。



2012

「持続可能な開発のための新たな政治的誓約を保証し、持続可能な開発に関するおもなサミットの成果の実行について、今日までの進歩と残っている不足部分を評価し、さらに新たに登場しつつある問題に取り組む」ことを目的とした、**国連持続可能な開発会議 [リオ+20]**を開催。

計画の当初から持続可能性を基本に据えた初めての夏季オリンピック大会が、ロンドンで開催される。2012年の大会にとって、持続可能性が意味するものは環境にやさしいだけではなく、態度、思考、計画、建設、購入など、すべてに盛り込まれている。ロンドン2012は世界自然保護基金 (WWF) とバイオリージョナル (BioRegional) の「ワン・プラネット・リビング (地球1個分の暮らし)」というコンセプトにもとづくアプローチを基本に据えている。これは現在のヨーロッパのライフスタイルに見られるような、地球3個分の資源を使うのではなく、地球が有する資源の範囲内で暮らすということだ。

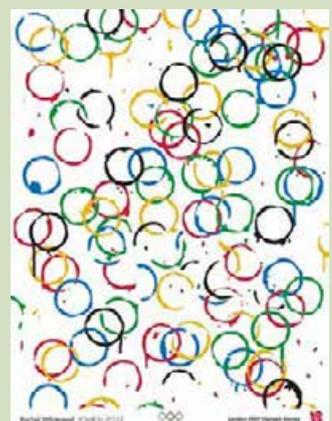


オリンピック・ムーブメントは、この大会が経済、環境、社会に与える影響を正確に示すのに役立つ国際基準、ISO 20121の開発に大きく関わっている。

6~8ページの画像はIOCより提供

「IOCはスポーツの中で、またスポーツを通じて、持続可能な開発と環境の尊重を促すことに真摯に取り組んでいます。悪化した環境がスポーツに与えるかもしれない影響と、スポーツ——特にオリンピック大会——が環境に与える影響、このふたつの懸念が、わたしたちの取り組みの原動力となっています」

ジャック・ロゲ (JACQUES ROGGE)
国際オリンピック委員会 (IOC) 会長



ひとつの地球—オリンピック

One-planet **Olympics**



地 球人は、この星の生態系が補充できる量より、平均50パーセントも多くの天然資源を使っている。地球が持続して供給できる消費量に戻せるように、開発グループであるバイオリジョナル (BioRegional) は、WWFと共同で、「地球1個分の暮らし」という世界構想を提案し、個人やグループが地球1個分の範囲内で暮らす方法——持続可能な方法で管理された建物やエネルギー、廃棄物、水、食物など、あらゆるものが含まれる——を講じる実用的な指針を提供している。

オリンピックという世界中の人々が注目する大イベントは、この「地球1個分の暮らし」の可能性とメリットを紹介する絶好の機会だ。オリンピックの開催は大変な仕事——新しい町をまるまる作り上げるようなもの——であり、来場する1万人以上のスポーツ選手や何百万人もの観客に対応するため、会場、住宅、その他のインフラを建設しなければならない。ロンドンオリンピック大会組織委員会 (London Olympic Games Organizing Committee=LOGOC) は、「地球1個分の暮らし」とロンドン大会のパートナーやスポンサーと協力し、ロンドン2012年大会を持続可能な大会にすることを約束した。何年も前から水面下で活動が進められていたが、聖火が到着した今、それをどう実施できるかを、ロンドンは世界中に実証しようとしている。

Populous/London 2012



エネルギー Energy

オ リンピック・パークの効率的な低炭素空調設備に動力を供給しているのは、新設のエネルギーセンターだ。このセンターの特徴は出力3メガワットのバイオマス・ボイラーを備えていることで、天然ガスと持続可能な状態で調達された木くずを使って発電している。冷暖房設備と発電施設を組み合わせたこのセンターは、発電過程で生じた熱をリサイクルして施設の給湯に用いたり、アクアティク・センターなどの会場や建物の暖房に使用したりしている。このシステムなら従来のエネルギーシステムより使う燃料が少なく、温室効果ガスの排出量を減らすことができる。遠くの発電所から送電するのではなく、現場にエネルギーセンターがあることも省エネになっている。

David Poutney/London 2012



環境にやさしい建築物 Green buildings

2012年ロンドン大会のオリンピック・スタジアムは、従来のスタジアムより鉄鋼の使用をはるかに少なくした設計になっているため、歴史上最も軽量のオリンピック・スタジアムとなった。また、産業廃棄物から作った、通常より排出炭素量が4割少ないコンクリートで作られているのが特徴だ。スタジアムのリング状の最頂部は余ったガスパイプで作られ、下層部は、建設資材の必要量を減らすために地中に基部を設けている。

競輪用トラックのあるオリンピック・ベロドロームは、軽量のケーブルネット構造で建設されているため、鉄鋼製品の使用量を1,000トン減らすことができた。また、内側には持続可能な調達方法であると認定された木材がはめられている。コンパクトでエネルギー効率のよい設計で、日光を最大限利用し、自然に換気されているため、必要な電気を抑えることができる。雨水貯留システム、水を使用しない男性用便器などの水有効利用設備を備え、大量の飲用水を使わなくて済むようになっている。

David Poutney/London 2012



アウトリーチ活動 Reaching out

2012年ロンドン大会から受け継いでいくもののひとつとして、LOGOCは世界中の若者にスポーツの力を伝えることを約束した。2009年には「インターナショナル・インスピレーション」プログラムを設置し、これまでに19カ国の1,200万人の若者が実施してきた。バングラデシュでは、25万人以上の子どもたちに水泳を教える手助けをしている。年間約1万7,000人の子どもたちが洪水で溺死するバングラデシュで、水泳はなくてはならない技術だ。ザンビアでは、青少年に健康な生活、HIV/AIDSについて教えるため、指導者研修を行い、150万以上の人々が教育を受けている。ブラジルでは、放課後の課外活動であるセグンド・テンポスポーツプログラムで400万人の青少年がスポーツを楽しんでおり、このプログラムの発祥地ロンドンでも、試験的に取り入れることにしている。



ごみ Waste

LOGOCは各会場からごみを全く出さないという意欲的な目標を立てている。ごみ——建築資材から公式グッズの包装まであらゆるもの——の70パーセント以上をリユース、リサイクル、あるいはコンポスト処理することをめざしている。残りについてはエネルギー回収システムやその他の技術を利用するつもりだ。

そもそも用地そのものが、大きな節約だった。約200万トンの汚染土壌を除染し、オリンピック・パークを作るのに再利用した。解体廃棄物の98.5パーセントはリサイクルし、一部は現地で再利用している。たとえば、エネルギーセンターの建設や、アクアティック・センターとハンドボール・アリーナの基礎部分にそれらが使われている。また、オリンピック・スタジアムには、再生資材を30パーセント以上含んだコンクリートを使っている。

オリンピック・パークは飲用水の使用を40パーセント減らすことを目標にしている。すべてのオリンピック会場で水有効利用設備が整っていて、雨水貯留システムやフィルター逆洗リサイクルシステムなどの節水技術が使われている。非飲料用の廃水は処理し、水洗トイレや灌漑に使用されている。

業者も協力的だ。コカ・コーラ社は2012年ロンドン大会のごみのリサイクルに役立てるため、ノース・リンカーンシャーにプラスチックボトルのリサイクル施設を作り、海外へ送って処理せずにするようにした。マクドナルド社は、保温包装容器は72パーセントのリサイクル繊維を含み、持ち帰り用の袋やナプキンやカップ用トレーは100パーセント再生紙で作ったものを使うことにしている。



輸送 Transport

ロンドンオリンピックでは移動に必ず公共交通機関だけを使うため、どの会場にも観客用の駐車場はない。ロンドン中心部からは専用バスが出ていて、車を停めてバスに乗り換えられる場所が市内各所に設けられている。特別割引の電車のチケットや1日乗車券もある。観客はリバーバスに乗り、テムズ川を通過していくつかの会場へ行くこともできる。

レガシー (遺産) Legacy

LOGOCの持続可能なオリンピック計画で欠かせないのは、大会後に残ったどんな施設も、必ず地元で役立て、今後何年にもわたって市民の健康と福利を増進させるものにするのである。

2.5平方キロのオリンピック・パークは、そこに住む野生生物と住民のための緑地として残される。パークの北端では、復元された生息地で多様な生物が育つのを観察しながら、人々が静けさを満喫できるようにする。パークの南端はカフェ、バー、市場、庭をそのままにし、にぎやかなロンドンっ子たちの集う場にする。

オリンピック・スタジアムでは、これからもスポーツ、文化、コミュニティのイベントを開催していく。ペロドロームには、地元のコミュニティやスポーツ選手のために、新しいマウンテンバイクのコースとロードサイクルのサーキットが作られることになっている。

オリンピックとパラリンピックの選手村は、イーストロンドンの住民のために2,800戸の住宅に改造される予定だ。

カヌースラロームのコースがあるリー・バレー・ホワイトウォーター・センターは、もとのカヌーとカヤックの競技場に戻る。2010年12月に完成したこのセンターは、2012年ロンドン大会の会場の中でただひとつ、開会前に一般人が使うことができる場所だった。



生息地 Habitat

ほとんどのスタジアムが集まっているオリンピック・パークは、リーリバー・バレー回廊沿いにある、汚染され放棄され誰も近づけなかった約250ヘクタールの工業地跡を再生させたものである。この回廊の中には、干潟や葦原など、重要な野生生物の生息地がある。ロンドン大会はこの地域を、過去150年間にヨーロッパで作られた最大の都市公園に変貌させた。そこには静かな野生生物の生息地域と、人にやさしい公園や庭園が共存している。

工事関係者は土壌を除染し、水路をさらい、川堤を修理し、日本のイタドリなどの外来生物を取り除いた緑地公園を建設した。ここから撤去した廃棄物のリサイクル資材を使って景観を作りなおし、一帯にはトネリコ、ヤナギ、カバノキ、スズカケノキなどの4,000本の木——ほとんどは自生樹木——と、30万本の湿地植物や草花植物を植えた。植生が雨水を吸って洪水を防ぎ、再生した湿地帯にはカワウソ、カワセミ、アオサギ、ミズハタネズミなどが住むようになった。これらの地域は、イーストロンドン全体に広がる緑地公園とつながり、都会と野生生物の出会いの場となっている。

オリンピック・パークの建物の上でも野生生物の繁殖が進められている。これらの会場の屋上の広さは合計1万5,000平方メートル。そこに土を盛り、植物を植え、さらにコウモリや鳥類のために675個の巣箱が備えられている。

試合の 燃料補給



Fuelling
the Games

Andre Abraham/CC-2.5

選手、スタッフ、観客、ボランティア、政府高官、報道関係者——大会期間中は、こんなにたくさんの胃袋を満たし、肉体が活動するためのエネルギーを提供しなければならない。大会が終わるまでに、1,400万食以上の食事が平らげられるという計算だ。

だが、1,400万人分の食事とはいったいどんなものだろう？ 主催者の見積もりによると、食事の総量は、パン2万5,000斤、じゃがいも232トン、魚介類82トン、鶏肉31トン、牛肉100トン、牛乳7万5,000リットル、卵19トン、チーズ21トン、野菜と果物330トンに上るといふ。主催者はこれを「世界最大の平和時ケータリング業務」と呼んでいる。

このような巨大な需要に対して、食品を持続可能な方法で、現地で、倫理的に調達すること、そして最も栄養のある食品を提供することが、実際的にも環境的にも当然といえよう——何といてもオリンピックなのだから！ ケータリング業者の目標は、持続可能な調達基準を守り、75パーセントの非加工食品、50パーセントの地元産食品、30パーセントの有機食品と有機飲料を供給し、動物由来の食品はひかえめに、というガイドラインを守ることだ。

これは、温室効果ガスの排出を減らし有機栽培を推進するので地球のためになるが、それだけでなく、長い目で見ると英国の食品産業を変えていくチャンスでもある。現地の業者を優先することは英国の農家の景気を良くする効果があるし、大会が地元産の有機栽培の旬の食材を重視すれば、食品を取り巻く健康、倫理、持続可能性の問題への理解が深まるという遺産を残すことができる。

都市菜園

City gardens

自分で
栽培してみませんか？



2012年ロンドン大会の持続可能な食品戦略のひとつは、「意識」という後々まで残る遺産を、ロンドンに残すことである。ロンドン市が設置したプロジェクト「キャピタル・グロース (Capital Growth)」は、ロンドン市民に報奨金を提供し、使われていない都会の空間——校庭、鉄道操車場、運河の堤防、そして特に住宅や商業ビルの屋上——を開拓して菜園を作り、地元産の果物や野菜を大会に、また大会後は地元のコミュニティに、供給するというものだ。住民がウェブサイトで申し込みをし、使える場所と自分たちの希望が合えば、市が道具やコンポスト、研修機会、報奨金——菜園にした屋上1カ所につき1,000ポンド(1,600米ドル)——を提供する。研修には、リージェンツ・パークでの食料栽培講座、コミュニティでの養蜂などがあり、さらには栽培した農産物を地元のレストランや青空市場で売る方法まで教えてくれる。目標は2012年末までに2,012カ所の新しい菜園を作ることだが、このアイデアがうまくいけば、ロンドン市内の100平方キロメートルの屋上菜園だけでも、ロンドン市民がもっと自足的かつ持続可能な方法で生活するのに役立つことだろう。



イギリスが一番!



British is best!

ロンドンオリンピック大会組織委員会 (LOGOC) は、大会期間中、「イギリス最高のもの」を紹介する——国内で調達できないものについてはフェアトレード業者から調達する——と約束した。



- すべての乳製品、牛肉、仔羊肉、鶏肉はイギリス産か、またはイギリスと同等基準のものであること。
- すべての食品は、肉、果物、野菜、サラダ、シリアル、乳製品の基準である「レッドトラクター (Red Tractor)」基準——高い生産品質を保証する英国独自の認証基準——を守ること。
- バナナ、茶、コーヒー、チョコレート、砂糖はフェアトレード、または倫理的に調達されたものであること。
- 卵は放し飼いの鶏が産んだもので、ブリティッシュ・ライオン・マークがついている、すなわち、卵は最も高い食品安全規定に即して生産されたものであること。
- すべての魚介類は持続可能なものであり、海洋保全団体 (MCS) が「回避すべき魚」に特定したすべての種や種族を除外していること。天然魚はすべて、FAO (国連食糧農業機関) の「行動ある漁業のための行動規範」に合致したものであること。

地元の業者にエールを

Encouraging local enterprise

ロンドン中の民間ケータリング業者は、大会の食糧供給の入札に参加するよう呼びかけを受けた。入札では地元の中小企業が優先された。ケータリング業者はすべて、2012年の持続可能な食品基準を守り、新鮮で健康な食事の用意のための研修を受けなければならない。ファーストフード大手のマクドナルド社——この大会で唯一の大企業食品プロバイダー——でさえ協力が求められている。マクドナルド社は英国の農家からすでに卵、豚肉や牛乳など大量の食品を購入しているが、この大会では鶏肉もイギリス産でなければだめなのだ。

山を大事に

Take care of your mountains

ウィンタースポーツ——特にスキー、クロスカントリー、スノーボード——は、世界中でますます人気が高まっている。最も有名なスキーの名所はヨーロッパアルプスと北アメリカのロッキー山脈だが、アンデス山脈、日本アルプス、カシミア、ニュージーランドの南アルプス、オーストラリアのスノーウィー山脈——さらには、イラン、アルジェリア、レバノン、韓国、グルジア、南アフリカ、モロッコのような場所にもスキーリゾートがある。世界中どこでも、ウィンタースポーツは地球の壮大な山岳環境を経験できる、爽快で健康的な方法なのだ。

だがスキー人口が増えるなか、このような高地の生態系がどれほどもろいかわれなことが大切だ。急な斜面、厳しい気候条件、薄い表土のため、生態系は浸食や地すべりの影響を受けやすい。さらに山岳環境では、さまざまな生態系が、比較的小さな、しばしば孤立した帯状地域にひしめいていることが多い。こういう環境に、その土地にしかない特殊な種が非常に多く生息している。それらは人間の活動や気候変動によってたやすく破壊されてしまい、極地を除けば地球上のどんな場所より、高地というのは影響が顕著に表れる場所なのである。ヨーロッパの高山の植生研究によると、寒冷地の植物——ヨーロッパ高山種の *Nevadensia purpurea* など——が、より温暖地の植物に駆逐されつつあることが明らかになっている。これらの種は、さらに高地へ移動するより他に行く所がないので、最終的には居場所がなくなり、完全に消滅してしまう可能性がある。

同時に、道路やスキーリフト、建物、ごみ処理などによって生息地は破壊・分断され、人間の存在自体も野生生物にとってはストレスになる。ヨーロッパアルプスの中核種であるクロライチョウを調査している科学者たちは、人間との接触によって鳥のストレスホルモンが大幅に増えたことを発見した。またオーストラリアでも、リゾート開発で生息地が分断したため、マウンテン・ビグミーボッサムが絶滅の危機に瀕している。

もちろん、ウィンタースポーツを楽しむのをやめるべきだと言っているのではない——しかしこのことを心に留めていれば、環境への影響を考慮した選択をするのに役立つ。ここにいくつか役立つヒントを挙げておこう。

1. クロスカントリー・スキーやスノーシューイング (=スノーシューを使って雪山を歩くスポーツ) を試してみよう。これならスキー用のゲレンデを作るために景観を変える必要もなく、エネルギーを大量消費するリフトや人工雪もいらない。
2. 飛行機を使わない。雪山リゾートへ来るときは車が電車を使い、温室効果ガスの排出を少なくしよう。
3. リゾートまで電車でも行けるようにする、乗り物にバイオディーゼル燃料を使う、浸食を防ぐための植生を植えるといった、環境にやさしいリゾートへの取り組みを支持しよう。



tourisme43/flickr

スノーマシン (人工降雪機) Snow machines



天候が思うようにいかないとき、スノーマシンを使えば確実に斜面の雪を増やすことができるが、環境にやさしくない副作用がいくつか生じる。第一に、スノーマシンは非常に多くのエネルギーを消費し、大量の水が必要だ——2万3,800ヘクタールのアルプスのスキー場を雪で覆うには、1シーズンで950億リットルの水が必要になる。これは150万人の都市の年間水消費量に相当し、自然の水循環を妨げるおそれがある。

水は湖や川から補給するのだが、時として人工雪を作るために湿地を貯水池に作り変えることがあり、それが野生生物に悪影響を与える可能性もある。人工雪が溶けた水には天然の雪には見られないようなミネラルや栄養素が含まれ、植生に影響を与える。さらに、解けた人工雪はたしかに生態系に戻るのだが、土壌にしみこんで地下水を補給するのではなく、すぐ蒸発したり流れ出たりすることが多い。人類の半分は山岳地帯から湧き出る淡水に依存して生きている——そして地球の温暖化とともに供給量は減ることが予想されている——だからこのような影響を、真剣に考えてみるのが大切だ。



Thomas Boyd/The Oregonian

気候変動とスキー産業 CLIMATE CHANGE AND THE SKIING INDUSTRY

ウィンタースポーツ産業では、気候変動の影響を無視するわけにはいかない。過去30年の間に、山岳地帯の降水パターンは前より不規則になり、スキーシーズンが短くなった。スコットランドでは2004年、雪不足のため4つのリゾートが閉鎖に追い込まれた。2012年春、カナダのオタワでは突然の陽気で雪がすべて溶けてしまい、まだシーズンが終わらないうちにリゾートは店じまいを余儀なくされた。ボリビアでは2011年に、標高5,395メートルのチャカルタヤにある世界最高所のスキーリフトが、氷河融解のため運転を取りやめた。さらに、ヨーロッパアルプスでは、山に雪がなく嵐のパターンが予想できないため、ウィンタースポーツによる収入が不安定になっている。

この傾向は、今後も続く可能性があると専門家は見ているようだ。2006年のUNEPの報告書によると、ヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリアの低地にあるスキーリゾートは地球温暖化による脅威を受けていると警告し、この調子で融解が進むと、最悪の場合2070年までにオーストラリアのスキーリゾートは経済的に立ち行かなくなると予想している。そしてさらに2006年には、1,600メートルより低いヨーロッパの高山地帯に降る雪はすでに2割減っていた——これはヨーロッパのスキー産業にとって悪いニュースである。なぜなら、オーストリア、ドイツ、イタリアでは、多くのリゾートが1,300メートルより低地に作られているのだ。永久凍土層の融解は、危険な地すべりのリスクを高めるため、リフトなどの構造物を補強する必要が出てくる。

スキーシーズンの短縮は、巨大な経済的損失を生む。スイスの高山地帯では、観光業が最も重要な収入源だ。気候変動によって1,500メートルより低い地域のリゾートを閉鎖するようなことになれば、スイスは国内230カ所のリゾートのうち37パーセントを失うことになる。アメリカのニューハンプシャー州政府の委託で行われた分析によると、同州のスキー産業で、スキーのできる日が10～20パーセント減ると、その損失は4,200万～8,400万ドルに上るといふ。スキーリゾートの中には、不安定な経済に対応するため、ゴルフやパラグライダーなどのオフシーズンのスポーツを提供しているところもある。また、スキーのゲレンデをもっと高地に作ったり——野生生物保護規則に抵触することが多いのだが——スノーマシンで人工雪を降らせてシーズンを延長したりしている。

Kalevkevad



Alexandre Bouillot



冬季 オリンピック The Winter Olympics

2014年ソチ冬季大会は、ロシア連邦で初めて開催される冬季オリンピックである。屋内会場のあるソチ・オリンピックパークは、黒海に近いクラスノダールに建設中で、都会地域の生態系修復も兼ねた開発が行われている。ソチ国立公園に隣接しているクラスナヤ・ポリアナ村地域に山岳地帯の会場の建設が行われているが、この村は西コーカサス山脈ユネスコ世界遺産登録地域と生物圏保護区の中にある。その独特の生態系には、ニシコーカサスシャモアやニシコーカサスツルなどの希少な絶滅危惧種が生息している。同大会のため、国立公園はいくつかの区域を「保養区域」に変更し、その代わりとして森林に近い土地を国立公園の地域に指定しなおした。国立公園の中や周辺にある動物生息地を広げ、ボブスレーとリュージュの会場は生態系の脆弱な地域から離れたところに建設されることになっている。公園内の環境ディスカバリーセンターが、次世代教育をサポートする予定だ。

1992年リルハンメル・オリンピック大会は、環境への関心が開花した初めてのオリンピックだった。地元の町の住民はオリンピックのスポンサー企業に、野鳥保護区域や原生林の保全など、環境問題に細心の注意を払うよう強く申し入れた。

2006年トリノ冬季大会の主催者たちは、人工雪を作るのに必要な水の量について頭を悩ませた。慎重な調査によって計画を作成し、20個の貯水池が必要という最初の見積もりを9個に減らし、水源への影響を最小限に抑え、地元の水系を今後、恒久的に改善していくことになった。

2010年バンクーバー大会では、最も小さい生物にいたるまで環境への配慮が行き届いていた。ウィスラー・クリークサイド・アルペンスキー会場の建設で悪影響を受けるカエルやオタマジャクシは、人間の手によって40メートル上流へ移動させられ、人工雪用の貯水池使用に影響を与える重要な地元の植物は、近くの湿地に移植された。

環境を守るスター選手たち

Green stars



Thiago Henrique

ゴールキーパーのルッツ・ファンネンシュティールは、プロとして6大陸で活躍した唯一のサッカー選手だ。グローバル・ユナイテッドFCを設立しようと思ったのも、おそらくそんな真のグローバル経験があるからに違いない。このクラブのモットーは「サッカー選手VS気候変動」。チームは、ジョン・バーズ、ピーター・スドロブ、パベル・ネドベド、ジネディーヌ・ジダンなど250名の国際プレーヤーたちの協力を得ている。ルッツは、青少年とスター選手のあいだで気候保護推進と実践的な行動を促進するチャリティー試合のほか、植樹、環境清掃、ミニゲーム、学校や病院への訪問、青少年キャンプのコーチなどを手がけている。

400メートル走の世界選手権で2度の優勝に輝いたオーストラリアのキャシー・フリーマンは、オリンピックの陸上競技で金メダルを取った唯一のオーストラリア先住民だ。彼女は2000年のシドニー・オリンピックでのウィニングランで、アボリジニとオーストラリアの両方の旗を持って走り、話題となった。今日、キャシーは環境保護NPOランドケア・オーストラリアの大使として、国じゅうの水路の復旧を支援している。また、先住民と非先住民の子どもたちの教育格差を縮めるためのキャシー・フリーマン財団を運営しており、スポーツを通じて恒久平和の構築に取り組む国際組織、ピース&スポーツのメンバーでもある。

身長2メートル29センチのバスケットボールのスター選手で、上海シャークスとヒューストン・ロケッツでプレーした姚明は、約6万8,000人の死亡者を出した2008年の中国四川省地震の被害者のために200万ドルを寄付し、学校再建のための財団を設立した。また、姚明は中国のために、ふかひれスープを断固拒否し、この素晴らしい魚の乱獲をやめるよう呼びかけるとともに、熊の胆を取るための熊農場を声高に反対し「熊は自然の中に住む美しい動物だ。熊を愛し、大事にし



www.cathyfreeman.com.au



www.earthhour.org



Swim with Dolphins/flickr

よう」と訴えている。

「アースアワー (Earth Hour) は、ただ省エネというだけでなく、わたしたちに何が実現できるかを考えるときなのです。アースアワーにあなたがともす光は、あなたの声です。たくさんの光をともし、指導者たちに大きな声で叫びましょう。『この地球はわたしたちのただひとつの地球、わたしたちは地球をずっと保っていきたい』と。これは“ソーブード” (イアン・ソーブの別名) からの、アースアワーへのメッセージだ。オリンピックの水泳競技で5個の金メダルを獲得し、世界選手権で11回優勝したソーブは、今ではオーストラリアの有料放送フォクステルのテレビ司会者として、環境のために定期的に放送を行っている。また、オーストラリア先住民の人々の生活向上に取り組む一方、中国の北京にある孤児のための学校を後援している。

ブラジルのプロ・スケートボーダーで、フリップというチームに所属しているボブ・ブルンキストは、観客をあっと言わせるイベントに参加した。スケートボードとパラシュートを付けてグランドキャニオンに飛び込むというものだ。ボブは、スケートボーダーや自転車モトクロスのライダー、サーファーたちのエコ意識を高める取り組みをしている「アクションスポーツ環境同盟」の創設者の一人である。また、自ら運営するボブ・ブルンキスト財団は、学校で有機農業や有機園芸についての情報普及に努めている。



Keith Allison/Wikimedia



Sebastian Widmann



Troy Constable/Mystify Me Photography

エル・イホ・デル・サントとして知られるホルヘ・グスマン・ロドリゲスは、父親と同じくメキシコで人気のレスリングの一種、ルチャブレのスター選手の一人だ。だが彼がいっそう有名になったのは、絶滅が危惧されているメキシコ湾のウミガメを救うキャンペーンをしているNPO団体「ワイルドコースト」に参加したからである。ホルヘはコクジラを救うキャンペーンも行い、汚染されたティファナ川をきれいにする活動にも協力している。

ロバート・ケリー・スレーターは11度の世界タイトルを取ったサーファーであり、世界の海洋保全に熱心に取り組んでいる。世界中のサンゴ礁を保護し回復させる活動をしている団体「リーフチェック」のために募金活動をする一方、海についての知識を生かしてシー・シェパード環境保護団体に助言している。

Manon Bruel / Tunza インターン、2012年4月

自分自身に挑戦

Challenge yourself

耐久ランナー、レイ・ザハブは、2007年に7,500キロのサハラ砂漠を111日間かけて走行横断したが、最後に紅海に到達したとき、ある啓示を得た——この旅は、世界の水危機を訴えたマット・デモン制作の映画『ランニング・ザ・サハラ』に記録されている



Photos: impossible2Possible



「わたしは40歳近くで、走り始めてからまだ数年しかたっていませんでした。サハラを完走できたことと、わたしが偉大なランナーかどうかは、まったく別の問題でした。人は誰でも集中して全力を傾ければ、非凡なことができるのです。もっと前にそれを知っていればよかった。そのことを若者に伝える手助けができるとしたら?と考えました」。

レイは17歳から20歳までの若者を、世界を知るために肉体的にきついimpossible2Possible (i2P) という探検旅行に送りこみ、その冒険を世界中の学生仲間とわかち合うための組織を設立した。「長距離のトレッキングでも走行でも、それぞれの遠征にはテーマ——水、医療、生物多様性など——があり、それについては大学と協力してカリキュラムを作っています」とレイは説明する。

「わたしたちの2010年のアマゾン遠征は、国際生物多様性年をテーマにUNEPと連携して行いました。4名の大使が8日間をかけて先住民のコミュニティのあいだを徒歩で旅していき、タバジヨス森林国立公園の現地の人々から直接生物多様性について学びました。そんな日々の体験を、衛星テレビ会議によって世界中の教室にいる学生たちとわかち合いました。また、学生たちは専用サイトの旅行記録や教育資料にもアクセスすることができました」。これまでに、実際に遠征した青年大使は23名、遠く離れた学校や大学では7万人の学生がi2Pに参加している。

レイが世界的なアスリートになり、青少年の指導に携わるようになったのには、ドラマチックないきさつがある。30歳近くになるまでレイは普通の青年であり、喫煙者で、特にやりたいこともなかった。ある日、兄のスポーツ選手としての成績に触発され、スポーツに打ち込むことでしっかりした人間になることを決意した。それから数年間、

スポーツ経験のまったくなかったレイは——「ボールも投げられない子どもだった」と彼はいう——登山からボートまでさまざまなスポーツを試し、最後にマウンテンバイク競技の選手として成功した。

それでも、レイは自分をランナーとして考えたことは一度もなかった。ところがあるとき、カナダのユーコン州で160キロの24時間レースがあるという記事を目にした。「走れないと思っているせいで、走ったことすらないと気付いたのです。そこでほんの数週間のトレーニングで、レースに参加しました。半分までできたとき、もうやめようかと思いました。でもそのとき、天啓を受けたんです——人は毎日、自分自身に『そんなのやめておけ』って言っているのだと。そこで、もうのろのろ走るのはやめ、失敗を恐れず、行けるところまで行ってみようと思えました。すると、何とレイは優勝してしまっただけでなく、「『これだ、これを一生続けていこう』と思いました」。

それ以来、レイはロシアの凍ったバイカル湖やラテンアメリカのアタカマ砂漠を、徒歩で踏破してきた。南極にも徒歩旅行し、支援を受けないチーム遠征として南極までの世界最速到達記録を塗り替えた。

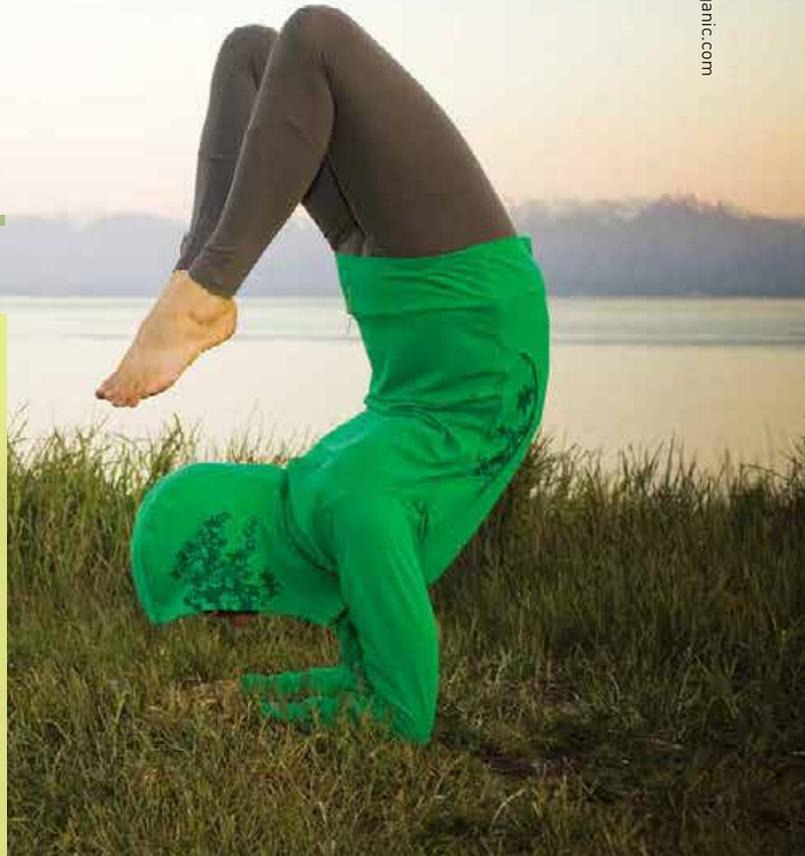
何がレイを動かしているのか。「挑戦することと、地球のまったく異なる側面を体験するのが楽しいんです。スポーツのおかげで、世界に触れ、世界を感じることができます。それは極限地域だけでなく、どこの土地でもそうです。世界のあらゆる美しさを味わうには、徒歩でないとだめなんです」。

次のi2Pの遠征は2012年秋にアフリカで、水と食糧の安全保障をテーマに行われる予定。

参加登録は<http://impossible2possible.com>から。

環境にやさしい スポーツウェア Green gear

スポーツをする環境を作るためのそれぞれ材料は、運動能力を支えてくれる。裏底に空気の入った靴はランナーにとって大きな違いを生み、リサイクルしたプラスチック製のフリースは軽くて温かく、耐水性がある。中にはあまりにも高性能なため、物議をかもし素材もある。一部のハイテク水着は、選手に次々と新記録を更新させた——それらはまだ破られていない——が、のちに禁止された。ハイテクで高性能のウェアが選手や観客にとって安全で着心地がよいことは大切だが、それと同じくらい大切なのは、そのようなウェアを作るために、必ずしも地球に負担をかける必要はないということだ。スポーツ産業が、新素材を最大限活用し、地球に負担をかけずに歩く——あるいは乗り物に乗る、走る、登る——方法を見つけ出すためにどんな取り組みをしているか、ほんの数例を紹介しよう。



最速の繊維 Fastest fibre

竹：これは成長が早く、土壌の浸食を防ぎ、ほとんど水分がいらず、樹木より素早く炭素を固定し、丈夫でしなやかな建築材となる。衣料企業が持続可能な布地用繊維の調達源として、竹を検討しているのも不思議はない。なめらかで柔らかく、軽量で吸水性に富み、天然の抗菌効果と静電気防止効果のある竹は、ジムやヨガのウェア、あるいはサイクリング用のシャツやレギンスのようなスポーツウェアにぴったりだ。衣料メーカーのフットプリント社は、環境にやさしいサーフボードの補強として竹の繊維を使い、その用途の広さに気が付いた。同社は今では、ランニング、サイクリング、スキー、ジムのトレーニングに適した靴下を有機竹から作っている。

だがひとつ、落とし穴があった。竹から繊維製品を作る工程で、環境に有害な化学物質を使う可能性があるのだ。そのため、企業が環境にやさしい繊維製品として竹の可能性を完全に認定してもらうには、まだしばらくかかるだろう。検索で、「Oeko-Tex Standard 100」を調べてみてほしい。これは、繊維製品に含まれている、健康や環境に

害を及ぼすおそれのある物質についての国際基準を定めたものだ。

竹には“乗る”こともできる。高性能自転車デザイン会社のカルフィー社は、環境への負担を極限まで抑えるため、竹、麻繊維、植物由来のエポキシ樹脂で作った特別注文の自転車を製造している。これらは軽量で丈夫で耐久性があり、使い心地がよい。また非常に精巧に作られているので、サイクロクロス、マウンテン、ツーリングなどの耐久競技で使うこともできる。

www.calfeedeign.com/products/bamboo

“乗る”なら波に限るという人は、ハワイのゲイリー・ヤングが作る、環境にやさしい竹のサーフボードを試してはどうだろう。ゲイリーはボードを竹のエポキシ樹脂で覆っているので、ファイバーグラスより軽量で、壊れたときにも粉々にならない。

www.bamboosurfboardshawaii.com



www.bridgedale.com

www.webmd.com



www.bamboosurfboardshawaii.com



透明な勝者 Clear winner

スポーツスタジアムに透明の屋根をつけること——自然光を取り入れて芝生を育てつつ、観客や選手を風雨から守るため——は、設計が少しばかり難しい。従来のやり方だとガラスを使うのだが、ガラスは重く、壊れやすく、それを支える構造物——たいていはエネルギーを大量消費する鉄鋼——が必要となり、それが観客席からの視線をさえぎる可能性がある。最近、スタジアム設計で建築家の注目を集めているのがポリカーボネートシートだ。ポリカーボネートはガラスのように透明だが、ガラスに比べて75パーセントも軽く、建設や輸送にかかる費用を節約できる。さらに、頑丈で壊れても粉々にならず、温度の変動にも耐えられる。ポーランドのワルシャワにあるアレナ・レギア(=ワルシャワ国立競技場)は、強風と豪雪に見

舞われる地域にあるが、このたび6月のUEFA EURO2012(サッカー欧州選手権大会)に合わせて、5,000平方メートル以上ある屋根をポリカーボネートで改装した。中国でも、2008年のオリンピックのために、大きな明るい瀋陽スタジアムを建設するにあたって、2万3,000平方メートルのポリカーボネートシートが使われた。ポリカーボネートシートは、太陽エネルギーをとらえるのにも役立っている。ドイツでは、ブンデスリーガのヴェルダー・ブレーメンの本拠地であるヴェーザースタジアムの屋根にも、透明のシリコン光電池を埋め込んだ3,000平方メートルのポリカーボネートパネルが使われていて、屋根と再生可能エネルギー源を合体させ、さらに自然光も取り入れるという仕組みになっている。

China-Britain Business Council



Przemyslaw Jahr



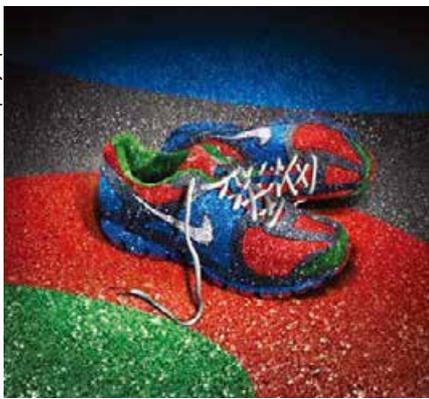
グラウンド・ゼロ (=粉々にして利用) Ground to zero

アスリートが身につけるすべてのスポーツ用品の中で、最もよく使われていて、おそらく最も頻繁に取り換えるアイテムは靴だろう。だが、古靴をごみの埋め立てに出す前に、そのすべての材料を利用してみたらどうだろう? スポーツ用品メーカー、ナイキの「グランド・プログラム」では、ナイキとその提携企業がスポーツシューズ——ナイキだけではなくあらゆるブランドのもの——を運動施設用フローリングにリサイクルしている。どの靴も3つの部分に切り分けられ、ラバーソール、発泡体のミッドソール、そして繊維製の上部に分解する。そして、ナイキの製造工場から出たスクラップ資材とともに、これらを別々にすりつぶして加工する。ゴムはナイキ製品だけでなく、陸上競技用トラック、ジムの床タイル、遊び場の仕上げ材に使用されている。発泡体はバスケットボールやテニスのコートの緩衝材に利用し、繊維は屋内の合成コートや木のコートの緩衝材として利用する。ナイキによると、リサイクル靴2,500足分でテニスコートやバスケットボールコートの床を張ること

ができるが、サッカーのピッチや陸上競技用トラックには約7万5,000足分が必要だという。

この事業をさらに持続可能なものにするため、ナイキは「環境アパレル・デザインツール」も考案した。これは衣料デザイナーが、コスト、品質、性能を考慮しつつ、むだを減らし、環境にやさしい素材を選ぶなど、もっと環境にやさしいデザインのための選択ができるようにするソフトウェアだ。ナイキは、スポーツ用品産業全体で環境フットプリントを減らすことができると、2010年にこのツールを無料公開した。また同社は、率先して「リサイクルポリエステル」——リサイクルした不要なプラスチックボトルから作った繊維——を資源に利用していることでも有名だ。ナイキはこの繊維から作ったウェアを、2010年FIFAワールドカップのいくつかのチームに支給したほか、2011年初頭までに、8,200万本のプラスチックボトルを、ごみとして埋め立てずリサイクルしてきたという。

www.playtop.com

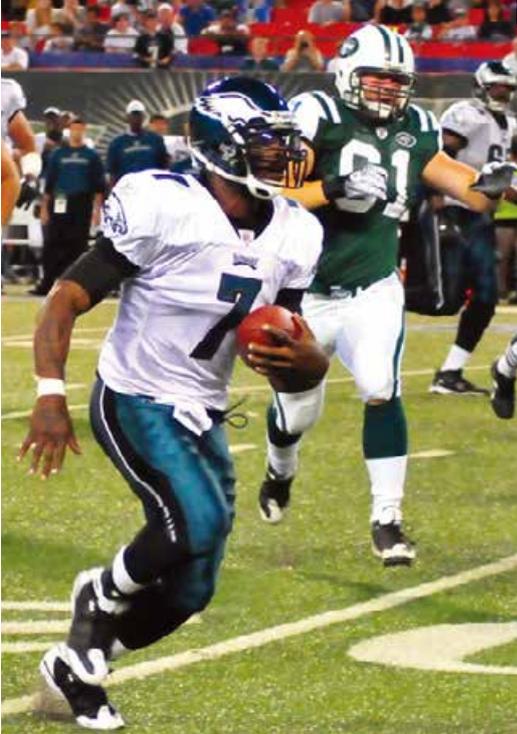


www.parksandcreation.org



www.info.nike.com





Ed Vourdon/flickr

もっと環境にやさしい試合を A greener game

毎年、アメリカで最も人気のスポーツイベントを見るため、世界中のファンがテレビの前に集まってくる。スーパーボウルだ。この有名なアメリカン・フットボールの全国優勝決定戦——リーグのチームが憧れのトロフィーをめざして1回きりの直接対決で勝者を決める、17週間のシーズンのドラマチックなクライマックス——は、毎年1億人以上の視聴者をテレビの前に引きつけている。

さらに32都市の32チームが1シーズンに合計332回の試合をするため、リーグもフットボールによるエコロジカル・フットプリントを考えないわけにはいかない。環境を維持することは、費用を節約し、資源を有効利用し、主催都市への影響を抑え、山のような廃棄物の管理にも役立つ。また、何百万人もの観客に環境的・社会的責任のメッセージを送るチャンスでもある。

ナショナル・フットボール・リーグ (NFL) は19年前に環境プログラムを開始し、それ以来、ごみ、資源利用、エネルギーなどに取り組むため、さまざまなイニシアティブやプロジェクトを生み出してきた。

フィラデルフィア・イーグルス



City of Philadelphia/Mitchell Left

2010年、フィラデルフィア・イーグルスは、2,500枚のソーラーパネル、80基の風力タービン、そして天然ガスとともにバイオディーゼルも燃料になる発電機を設置し、初めてエネルギーをすべて自家発電できるNFLチームとなった。余ったエネルギーは地元の電機会社に売却している。チームは、古い料理用油を送ってバイオディーゼルに変え、有機廃棄物をコンポストで堆肥にし、男性用便器で使用する水の量を半分に減らした。

デトロイト・ライオンズ



Ford Field

デトロイト・ライオンズのフォード・フィールド・スタジアムは、リサイクルした鉄鋼とリサイクルしたガラスを使って建てられたもので、リサイクルのゴムタイヤで作った人工芝が特徴である。使われず放置されていた歴史的建造物の一部も、構造の中に組み込まれている。

ヒューストン・テキサス



Houston Texans

このチームは、対話型メディアのガイドを発行しているが、大量の紙を使わずごみをなくすため、プログラムを印刷するのではなくスティック型のUSBメモリーで販売している。

第42回スーパーボウル (2008年)、アリゾナ州フェニックス

余った調理済み食品は食品回収団体が回収し、ホームレスのためのシェルター、無料の炊き出し場や、フードバンクなど、恵まれない人々に食事を出している慈善団体に送られた。フェニックス大学のスタジアムは、風、太陽光、地熱、埋立地ガスなどの再生可能エネルギーを使った。山火事で破壊された、アパッチ・シットグリーブス国立森林公園と、ホワイトマウンテン・アパッチ居留地の2カ所に、何千本もの木の苗が植樹された。子どもたちも行事に参加し、アリゾナ・カーディナルズと共同で、50校以上の学校の生徒たちがスポーツ用具や本を持ち寄り、恵まれない子供たちの団体や学校に寄付した。



2012 Indianapolis Super Bowl Host Committee

第46回スーパーボウル (2012年)、インディアナ州インディアナポリス

この試合は、風力発電による試合として称賛された。メディアセンターやホテルも含め、試合会場から排出される温暖化ガスをすべて相殺する、1万5,000メガワット時の再生可能電力証書 (REC) が、環境保護重視のサプライヤーから提供された (この証書は、提供されたすべてのエネルギーが環境にやさしいものだとことを保証するものではなく、使った費用がすべて自然エネルギー生成に向けられることを保証するものである)。NFLが後援する都市森林構想によって市内各所に木が植えられ、試合後は約10キロもある長い飾り用のバナーが取り外されて、シャワーカーテンやバッグに作り直された。



Nicholas Thompson

緑の目標、そしてその先へ…… GREEN GOAL and beyond...

サッカーが世界で最も人気のあるスポーツであるのはたしかだ。この球技は熱烈な——「取りつかれたような」という人もいるが——ファンを駆り立てている。サッカーの国際運営組織であるFIFAは、サッカーの世界的な影響を重く受け止めており、その結果、2006年のFIFAワールドカップは、世界初の気候ニュートラルな国際大会として開催されるにいたった。

そこまで到達するには、さまざまな取り組みがあった。ベルリンのオリンピックスタジアムは、照明のエネルギー効率を高めるため配線を直し、ドルトムントのヴェストファーレンスタジアムには太陽光電池システムが取り付けられ、太陽光発電による公衆電話ボックスとエネルギー効率の高い冷蔵庫が設置された。そして観客にマイカーで来場するのをひ



Thorsten Bachner

かえてもらうため、公共交通機関による来場者には割引サービスを提供することなどが講じられた。スタジアムの内部では、ファンは再利用可能な飲料カップを買いなればならなかったが、そのおかげでごみを大量に減らすことができた。もちろん、このような取り組みのどれひとつ取っても、試合から否応なく排出される9万2,000トンの二酸化炭素を防ぐには不十分だった。そのためFIFAは、ワールドカップのパートナーやスポンサーと共同で、インドのバイオガスプロジェクトや南アフリカのメタン発電プロジェクトなど、世界中の再生可能エネルギープロジェクトに投資を行った。

このような取り組みをさらに進め、南アフリカで開催された2010年ワールドカップでは、試合開催都市の街灯や信号や看板に太陽光発電機が取り付けられた。さらに、「グリーン・パスポート」——環境に責任ある観光のためのヒントが満載の小冊子——が観客に配られた。また2010年のワールドカップ出場チームの排出ガスを相殺する一助として、土壌コンポスト、太陽光発電による調理、LED照明、風力エネルギーを支持するカーボン・オフセット・プログラムが選ばれた。



www.ralpinpina.com

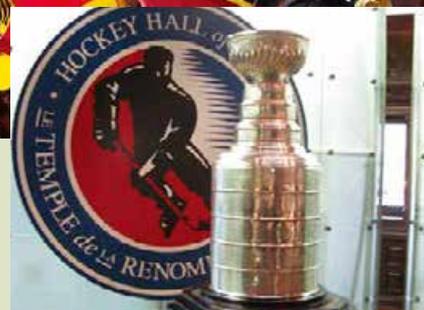
2014年にブラジルで開かれるワールドカップ大会は、環境にやさしい大会にできるように、いくつかの準備がすでに進行中だ。クリティバ市は、排出ガスと燃料消費の削減に役立てようと、来場するサッカーファンのために、電気とバイオディーゼルのハイブリッド・バスの運航を開始する予定である。また、今後のワールドカップでも環境問題を必ず考慮に入れるように、FIFAは招致契約に環境保護条項を盛り込むことにした。2018年と2022年の大会の招致プロセスからは、競技の開催による環境への影響をどのように回避し、減らし、あるいは相殺するかについての包括的な情報を提供するよう、申請国に義務付けている。

欧州サッカー連盟——UEFA、すなわち欧州サッカーの母体——は先ごろ、「質の高いスタジアムに関するUEFAガイド」を発行した。これは、スタジアムの発注、設計、建設、改装について順を追って説明したガイドである。この冊子には、エネルギー消費、廃棄物、炭素排出をどうやって減らすか、現地で生成した再生可能エネルギー（太陽光、風など）を使う可能性、雨水回収や家庭排水リサイクルなどの天然資源の利用促進といった、持続可能な考え方についての情報が記載されている。またスタジアムが近隣住民に与える影響についても記している。



C. Gopalakrishnan/©NU-FDL

サッカーに遅れをとってはならないと、クリケットも環境への配慮を高めようとしている。インドのプレミアリーグ (IPL) のメンバーは、2010年の第3シーズンの初めに「緑の



shynook/flickr

誓い」を行った。「地球はわれわれの住みかであり、われわれは貴重な野生生物、森林、海洋を保全しなければならない。わたしは自然遺産を大切にすため、自分の役割を果たすことを、誇りを持って誓う」。試合中、何百万人もの観客に向けて、温暖化ガスの排出をどうやって制限し、環境を大切にすればよいかについてのヒントが何度もスクリーンに映し出された。しかしこの誓いは始まりにすぎない。IPLは現在UNEPと協力して、廃棄物管理、水利用効率、建物、販売グッズ、輸送といったさまざまな事業に、持続可能性をどう組み込んでいくかの方法を模索中である。

バスケットボールでは、ナショナル・バスケットボール・リーグが、学生と一緒に植樹デーや清掃デーなどのコミュニティサービス実践プロジェクトに参加し、電気電子機器廃棄物 (e-waste) の回収とリサイクルを手伝ったり、環境にやさしい電球を観客に配ったり、いろいろな活動をしている。また2011年に、アメリカのナショナル・ホッケー・リーグのスタンレー・カップ決勝戦は、リーグ史上初の「水ニュートラル」なシリーズとして称賛された。同リーグは、試合を開催する2カ所の会場の水の総使用量——屋内スケートリンクから水道トイレ、その他さまざまなもの——を調査し、水の保全機関からその分の水保全証書を購入した。保全機関はその代金を使って水質を監視するほか、水利権保有者——水源として川を使用する農家など——が水の使用量を減らした場合の褒賞とし、水の保全のために奨励金を提供している。このような方法でナショナル・ホッケー・リーグは、人間が使ったため枯れてしまったオレゴン州のデシューツ川に、3,780立方メートルの水を戻す手助けをしようとしている。



Biosphoto/H. Daniel/Still Pictures

Sporting tradition 狩りという スポーツの伝統

Biosphoto/K. Pascal/Still Pictures



狩りは、わたしたちが受け継いできた伝統の一部です。はじめ、人類は狩りや採集をしていました。その後、社会が農業に依存しはじめると、狩りは害獣の増加を抑える——作物や家畜が動物に荒らされるのを防ぐ——ために、また食糧を捕うために利用されました。今では食料インフラにより、食べることは大多数の人々にとって容易になりましたが、一部の人々にとって狩りは必要不可欠で、依然として暮らしの大きな一部なのです。

他のスポーツ——生き残るための技術を磨いていったあらゆる訓練——の場合と同じで、狩りも娯楽のための活動として儀式化されてきました。しかし、狩りと釣りが他のスポーツと違うのは、自然と密接に関わり合っていることです。どう狩りをするかは、生態系に大きな影響を与えます。そこで、良心的なハンターは天然資源を管理する最善の方法を考えなければなりません。

実際の狩りの方法は非常に多様で複雑なので、環境に関する議論は混乱し、感情的で、異論の多いものになりかねません。野生生物は再生可能な資源ですが、この資源の乱獲は生物多様性の喪失につながります。ここで疑問が残ります。狩りを環境保護の手段と考えることはできるのでしょうか？

答えは、イエスです。実際ハンターたちは、環境保護が流行するずっと前から、環境保護論者でした。たとえば、国立公園や野生生物保護区の設置を支援したセオドア・ルーズベルト米国大統領は、熱心なハンターでした。画家のジョン・ジェームズ・オージェボンもそうです。環境保護団体であるオージェボン協会は、彼にちなんで名付けられています。その他、ハンターであり自然保護論者である著名人は、WWF（世界自然保護基金）の創設者サー・ピーター・スコット、オランダのベルンハルト殿下、エディンバラ公フィリップ殿下などです。

狩猟免許による資金は、しばしば直接、自然保護運動に使われます。たとえば合衆国では、今では野生生物資源保全法として知られているピットマン・ソバートソン法が1930年代にフランクリン・ルーズベルト大統領によって法制化されました。この法律には、武器と銃からの税金と、狩猟と釣り免許の取得料は、自然保護計画のために使用すると明記されています。資金は野生生物保護を目的とする科学調査と野生生物管理地域の購入・開発に使われます。このプログラムは野生の七面鳥、オジロジカ、アメリカヘラジカ、ボブキャット、クーガーなど、多くの動物の個体数を回復する助けとなりました。

世界中で——キャンペーン、狩猟免許料や実践活動を通して——ハンターたちは、森林から小さな林、生け垣からサバンナにいたる自然の生息地を保全するための支援を行っています。ますます人間中心になっている風景の中で、いくらかでも野生生物のための区域を確保しようとしています。

食卓に… For the table...

どのような見方をするかにもよりますが、狩りは、工場で大量生産された動物を食べるよりも、人道的かつ良心的で、環境に配慮した肉を捕獲、消費する方法です。狩猟動物は、閉じ込められて大量生産さ

れた穀物をえさとして与えられること——地球温暖化と生息地の破壊、またその他の環境問題を引き起こすような慣行——もなく、自然の生息域を自由に動き回り、えさを探すことができるということを考えてください。

自分たちで食べるために狩りをする人もいますが、暮らしのために動物を捕獲する人もいます。たとえば、狩りが森林管理に重要な役割を果たしているドイツでは、ハンターは、個体数が増えすぎて森林に被害を与えているシカやイノシシを捕獲する権利を得るために、高い狩猟免許料を払っています。ハンターはその肉を肉屋に売り、生計を立ててい

ます。これによって生態系のバランスが保たれ、人々は持続可能な方法で食料を得て、その一方でむだを省くことができます。

もちろん、多くの人々にとって、狩りは生き残りに関わる事柄です。捕獲された動物は、今もなおアラスカの人々の固有の食べ物であり文化的伝統です。しかし、ブッシュミートとして知られている野生の狩猟動物を長く食用にしてきた西アフリカと中央アフリカでは、持続不可能な狩猟慣習と営利目的の大きなブッシュミート市場での違法な取引によって、野生生物——ゾウ、ゴリラ、チンパンジーなどの絶滅危惧種を含む——は深刻な脅威にさらされています。



Agris Krustis/www.agriskrustis.com



Thomas Hawk/thomashawk.com

密猟問題 THE POACHING PROBLEM

密猟——野生動物と植物の違法な捕獲・採集——は、生物多様性にとって深刻な脅威です。密猟をする理由はたくさんあります。単純に生活のためという理由もありますが、密猟のおもな要因の一つは、食用や伝統的な薬の材料として、あるいは皮、香料、象牙などを目的とした希少動物の商業市場にあります。ゾウは、その非常に貴重な象牙のためにアフリカ中で殺されています。サイは角のために、ジンバブエ、コンゴ民主共和国、インド、ネパールで殺され、さまざまな症例に処方できる薬として伝統的に珍重されているアジア諸国に、角1本あたり4万ドルから10万ドルで売られています。トラ——最も多くは毛皮、歯、^{みぞつめ} 鉤爪、中国の薬の材料として殺されている——は密猟によって、絶滅寸前まで追い込まれました。パキスタンのトカゲとヘビは、皮を取るために殺されています。

しかし、違法な品物には高い値がつくとは言え、密猟には欲がからんでいると同時に、経済的に必要であることも多いのです。密猟の多くは、世界のうちでも人々が1日1ドル以下の収入で生活しているような地域で行われています。そこでは密猟は、身体的な危険と刑罰のリスクを犯すだけの価値があるのです。持続可能な生活という問題の解決に取り組まなければ、これからも貧困によって違法な狩りが続けられるでしょう。

絶滅危惧動物の密猟は、長いあいだ非常に大きな問題でした。1973年、154カ国が野生動物と植物の取引を規制する包括的な条約、絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約(CITES)に署名しました。CITESは5000種類の異なる動物種の取引を規制し、さらに800種の販売と取引を禁止しました。しかし残念なことに、取引の禁止は違法商品の価値をつり上げ、動物たちをより大きなリスクにさらす危険性があります。

狩りのタブー Hunting taboos

昔も今も、さまざまな文化にある狩りのタブーが個体数を維持する助けとなってきました。マダガスカル^{マダガスカル}の伝統的なタブーは、キツネザルを殺すと不運に見舞われると忠告していて、そのおかげでこの種は食肉として捕獲されるのを免れてきました。今でもまだ、アイアイのようなある種のキツネザルは悪霊であると信じている人もいます。

ナバホ族のハンターたちは、伝統的にシカの皮と骨を神聖なものと考えて保存してきましたが、狩ったシカの一部は将来豊かな猟が確保できるように残しておきました。伝統的な祈り——“わたしはお前たちの仲間1頭を殺したが、それを愚かに使うことは決してない”——は、何もむだにはしないという決意を表したものです。

北アメリカとヨーロッパの狩猟シーズンは厳密に規定されていて、通常は秋から晩冬であり、春と夏の繁殖期を避けています。この時期は、動物たちの最も^{あぶら}脂がのっている飼育期だという利点があります。フランスでは、シカ猟の季節は6月から9月まで。イギリスでは、キジ撃ちは10月1日から2月1日のあいだだけ行われるようです。

トロフィー・ハンティング TROPHY HUNTING

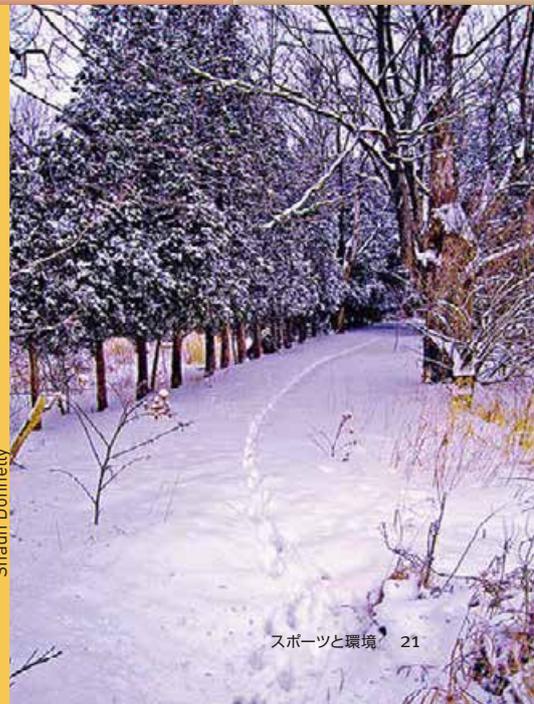
毎年、狩り目的の観光客が政府、自然保護団体、あるいは地域の住民によって民間経営されている鳥獣保護区——大多数がアフリカにある——へやって来ます。ハンターたちは、サイ、ヒョウ、ヌー、ライオンなど、仕留めるのが難しく希少な動物を、プロのガイドを同伴してその生息域の中で追いかけるために、高い料金を支払います。

自然保護論者は、どのようにこの狩猟観光と環境保護との折り合いをつけているのでしょうか？ 狩猟観光は、国際自然保護連合(IUCN)やWWFなどの自然保護団体から、持続可能な開発の一手段として認められています。IUCNは「自然保護」を、野生生物を含む天然資源の保護と持続可能な利用と定義しています。持続可能な方法で行われるトロフィー・ハンティングは、利益を生み出す、比較的悪影響の少ない収入源なのです。環境保護の面から見ると、狩猟観光は未開の自然を手付かずのまま残し、生息域の分断、森林減少、農地への転換を食い止める対策になります。財政面から見ると、狩りは野生生物自身が自らの価値で稼ぐ助けになります。うまく管理されている鳥獣保護区であれば、大人数の観光客を受け入れなくても、地域の貧しいコミュニティの収入と雇用を生み出すことができます。



S. Tuenglar/Zoonar.de/Specialist Stock

動物たちを殺すことで種の回復を助けることができるという状況が、矛盾していると思われるなら、南アフリカのことを考えてみてください。地主たちは過剰な数のオスのシロサイを間引き、収入源にすることを許されていて、これが動物たちの住む土地を買い与える奨励策となっています。これに助けられて、民間所有の鳥獣保護区では、シロサイの個体数は——1968年の1,800頭から1994年には6,370頭というように——回復速度を早めました。狩猟観光からの助成金も、この国のオジロヌー、ボンテボック、ケープヤマシマウマの再繁殖の成功の支えとなりました。



Shaun Donnelly

7 オリンピック つのレガシー(遺産)

Olympic 7 legacies



The Last Minute



Orlando O'Neill



p.r/flickr

リッチモンド・オリンピックオーバル バンクーバー

2010年冬季オリンピックのスピードスケート会場であるリッチモンド・オリンピックオーバルは、サギの翼の曲線に似せて作られている。その屋根は、商品価値の高い何百万本もの木々を枯死させた、2009年の北アメリカで起きたバインビートル大量発生で被害を受けた時の木材で作られている。回収された木材で構築された屋根は、廃材とみなされていたものを独創的に利用する例となり、苦しんでいる木材産業を活気づけた。建物の内部では、スケートリンクのために水を凍らせる際に発生した熱が施設の他の部分の暖房に使われ、それでも余った分は、周辺地域の暖房に供給されている。外では、池に赤杉で作られた遊歩道がかけられている水生植物園が、流れた雨水を集めて、湿地処理池として機能している。植物が重金属やその他の不純物を除去し、トイレの洗浄水や土地の灌漑に使われている。その一方で池は、鳥や水生生物の生息地になっている。

ウォーターキューブ 北京

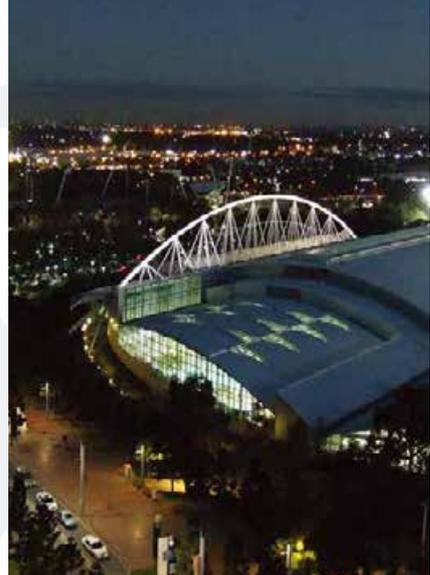
青いLEDライトが輝く北京国家水泳センター——ウォーターキューブ——は、未来的かつ有機的に見えるように工夫されている。2008年北京オリンピックの水泳と飛び込み競技のために建設され、今ではウォーターパークになっているこの建物の特徴は、幾何学模様化したシャボン玉を元にしたデザインだ。鋼鉄のフレームが構成するセルは、弾力性のある軽量のポリマー膜からできた4,000個のシャボン玉——そのうちのいくつかは直径約9.14メートルもの大きさ——で埋め尽くされている。このポリマー膜は、ガラスよりも光と太陽熱の吸収量が多い——建物とプールの水と両方を温め、エネルギーコストを30パーセント削減できる——にも関わらず、製造、輸送、組立に使用するエネルギーがずっと少なくてすむ。強く、弾力性があり、修理しやすく、通気性がないのでホコリを寄せ付けず、断熱性に優れている。内部は、特殊な2段階式のろ過装置が水を浄化し、プールに戻す仕組みになっている、年間14万トンの水が再利用されている。

都市の再建 バルセロナ

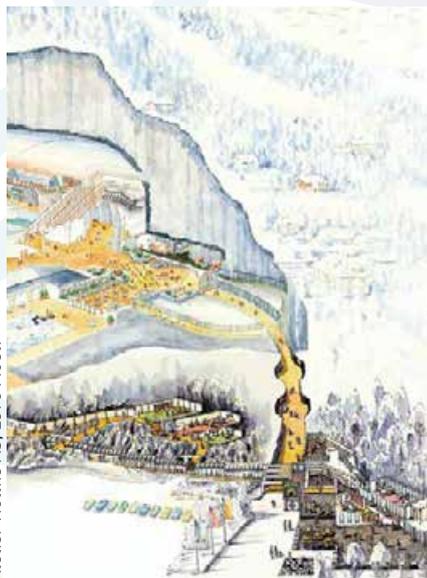
1992年のオリンピックが、われわれが今知っているバルセロナを創ったと言われている。芸術と文化で名高い、刺激的で洗練された街というイメージである。オリンピック以前、バルセロナは悲惨な状態だった。交通は渋滞し、公共交通は不十分で、脱工業化による都市の衰退が進んでいた。オリンピックの計画担当者たちは、都市全体の改革のチャンスととらえ、これまで放置されていたいくつかの地域の開発を計画した。オリンピック村は海岸近くの見捨てられた工場地帯——それまではさびれた地区だと見られていた——に建設された。オリンピック・ポートに接して6つの人工海岸が造られ、それによって、住民も観光客も海へ遊びに出かけることができるようになった。市街を取り巻く新しい環状道路が交通渋滞を緩和し、新しいスポーツ施設が建設され、歴史的建造物が修復され、ホテルや商業施設が拡張された。それらすべてによって、バルセロナはビジネスにもレジャーにも好ましい都市となった。

オリンピック公園 シドニー

2000年シドニー・オリンピックのオリンピック公園は、商業・産業廃棄物で汚染された地区ホームブッシュ・ベイに建設された。この土地の再生のために、バイオレメディエーション池を利用した地下水の浄化、汚染土の改善、河岸の保全、在来種の植付け、40キロメートル以上に及ぶ歩道と自転車道の敷設などが行われた。全体で430ヘクタールの自立型の湿地、森林、公園として再生し、年間250万人が訪れるレクリエーション施設となり、また生物多様性——鳥類180種以上、は虫類10種、カエル7種、そして多種にわたる在来種の魚——を保全している。この公園の目玉は「水再生管理システム」で、年間8億5,000万リットル以上の飲料水を貯蔵し、公園内やその施設、また近くのシドニー郊外ニューイントン——大会中はオリンピック村として利用され、現在は世界最大級の太陽光発電地区——に再処理した水を供給している。



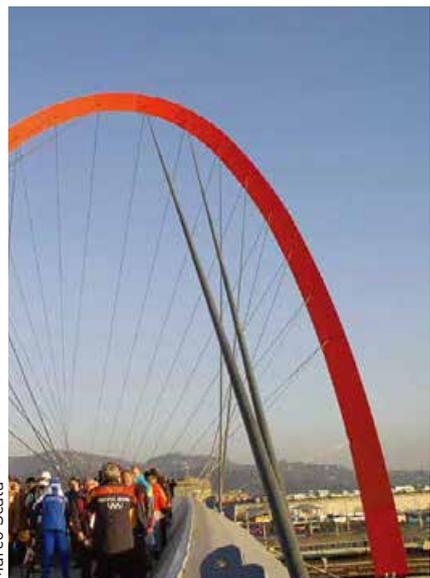
Simon_sees/flickr



Atelier Holthe AS, 2390 Moelv



London 2012



Marco Scala

エーピック・オリンピック・キャバーン・ホール リレハンメル

1994年、ノルウェーのリレハンメルで歴史上初めて“グリーンな”オリンピックが開催され、今では当然とされているスポーツ大会の基準が定められた。エネルギー効率の良い冷暖房、ごみの70%をリサイクルあるいはコンポストする計画、そしてオリンピック後の施設の利用計画である。写真のフィルムからスタートを告げるピストルの弾丸まで、再生され、再利用された。目的別に建てられた10施設のうちアイスホッケー会場となったエーピック・オリンピック・キャバーン・ホールは、花崗岩の山中という珍しい場所にあることから注目された。1万平方メートルの複合施設内の観客席数は5,000席で、貴重な市街地区をむだに使わず、施設内の温度を一定に保てること——排熱回収技術とともに——冷暖房にかかるエネルギーの節約を助けている。ここは今でも、多目的のスポーツ・娯楽施設としては世界最大のホールだ。

フラットバック（組み立て式）・スタジアム ロンドン

フラットバック家具店で再使用可能な建物を見つけるのは無理だろうが、再使用可能な建物は、誰もが知るオリンピックの問題点に対する革新的で経済的かつ適切な解決法である。問題点とは、高い費用を投じた施設も大会終了後はもはや不要で、公共財産の浪費でしかないということだ。これこそ2012年ロンドンオリンピックのバスケットボール・アリーナ——パラリンピックの車椅子バスケットボールと車椅子ラグビーの会場にもなる——建設の背景にあるアイデアだ。高さ33メートル、長さ115メートル、収容人員1万2,000人のスタジアムは分解できるように設計されていて、必要になるかもしれない他の都市へすでに提案されている。一番の候補地は2016年にオリンピックが開催されるリオデジャネイロだが、他の都市も興味を示している。もし、一時的で移動できるスポーツ施設というアイデアが普及すれば、貧しい国々でもオリンピック開催を検討できるかもしれない。

トリノのアーチ トリノ

2006年冬季オリンピックがトリノで開催されたとき、街はこの大会を記念する印象的なシンボルが必要であり、また都市のインフラを改善するような何かを建設する機会にしようと決めた。その結果が、トリノのアーチ橋だ。高さ69メートル、幅55メートルの非対称形の鋼鉄アーチで、巨大な赤い自転車の車輪のように見える。そこに長さ400メートルの歩道橋がつるされていて、以前は線路で分断されていた市の2つの地区をつないでいる。アーチを前向きさと再建のシンボルにしたいと考えた設計者は、最小限の材料で、流線型の、強健でモダンな形を実現した。オリンピック選手たちはこの歩道橋を渡ってオリンピック村から競技場へ行くことができ、今では地域の住民の鉄道や地下鉄へのアクセスを容易にしている。



環境都市・わこう

(埼玉県和光市の環境への取り組み)



和光市長 まつもと 松本 たけひろ 武洋

1. はじめに

和光市は、埼玉県南西部に位置し、人口約7万8千人、面積11.04平方キロというコンパクトシティです。市の中心にある和光市駅からは所要時間13分の池袋をはじめ、銀座、渋谷、新宿という東京を代表する繁華街に電車一本で行くことができます。また、狭い市内に2か所ものインターチェンジがあることから利便性が高く、交通の要衝となっています。

当市は、武蔵野台地の辺縁部の起伏の激しい地域にあるという地理的位置を特徴づける斜面林や地域の産業・食文化に大きな影響を与えてきた湧水に代表される自然環境を併せ持つ近郊型の住宅都市として発展してきました。

さらに、世界企業本田技研のオフィスや研究所がある産業都市である一方で、理化学研究所、司法研究所、税務大学校、保健医療科学院などの研究研修施設などが展開する文教都市という側面も併せ持っています。

2. 和光市における環境施策の位置づけ

当市の行政計画の根幹をなす第4次総合振興計画では「みんなで作る 快適環境都市 わこう」を目標に、特に環境施策では緑地や湧水の保全に注力しています。また、平成15年に完成した当初の環境基本計画策定においては当時としては先進的な複数の公募市民を含む策定委員会を立ち上げ、市民の思いを踏まえて策定しました。昨年は改訂作業を行いました。今回も当初の計画策定にかかわったメンバーを中心に結成された環境市民会議が活躍しました。この背景には、平成15年に全国的に見ても早期に制定された市民参加条例を中心とする市民参加のま

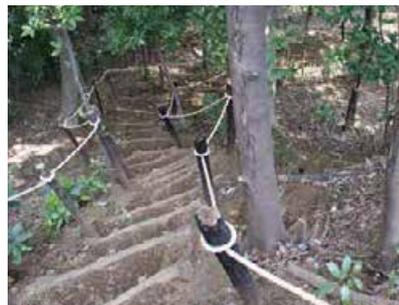
ちづくりの推進があります。私も市長就任以来、市民協働のまちづくりを推進しており、平成22年度には市民提案型事業委託制度と行政提案型協働委託制度という二つの市民協働の仕組みを構築し、事業化を進めてきました。環境施策においては単に環境を保護するという視点だけでなく、市民を積極的に巻き込み、市民とともに地域の環境を守るという視点を大切にしています。

3. 和光市の特徴的な取り組み

(1) 市民とともに守る斜面林

平成23年度現在、当市の緑被率は37.6%となっています。当市では、宅地の開発や土地区画整理により、平地の緑が失われたことから、一定規模の緑地の多くは傾斜地にあるというのが実情です。このため、当市の緑地保全と斜面林は切っても切れない関係にあります。

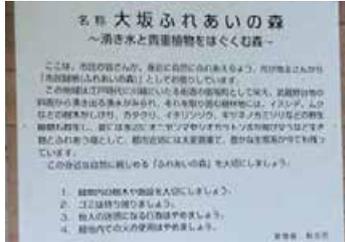
この傾斜地にも開発の波が訪れ、地下室を活用したマンションが開発されたため、平成18年、「和光市斜面地建築物の構造の制限等に関する条例」を策定し、傾斜地の乱開発に歯止めを掛けることができま



傾斜地の緑地の保全
(午玉山特別緑地保全地区)

した。さらには、同時期に導入した建物の絶対的な高さ制限（高度地区制度）も高層マンションの乱開発に歯止めをかける一助になっています。

また、平成11年、当市は「和光市市民緑地事業実施要綱」による「ふれあいの森」制度を導入しました。現在、借地緑地5カ所を指定していますが、このうち3カ所は市民団体に管理していただいています。なかでも大坂ふれあいの森の管理は、当市が平成22年



大坂ふれあいの森

度から導入した行政提案型市民協働事業の対象案件として管理する団体を募集したところ、地域の環境保護関係団体によりあらたに結成された白子大坂湧水林保全の会に手を挙げていただき、市とともに管理に携わっていただいています。

また、平成16年に市は午王山地区にある斜面林を購入して保全を図ることとしましたが、ここでも新たに団体が発足し、整備・管理を行っています。

当市における民有の斜面林の地権者の高齢化や相続による世代交代が進む中、今後は市が斜面林の保全により大きな役割を果たすことが予想されます。貴重な都市部の緑を守るためには地域住民のご協力が不可欠であり、今後も市民協働を柱にまちの象徴である斜面林の保全を推進したいと考えています。

(2) 若手職員がエコオフィスを推進

和光市は平成13年度から5年間、ISO14001の認証を取得していました。現在は、費用対効果の観点から、認証を返上していますが、認証にともなう活動で培ったノウハウを活かし、平成19年度からは「和光市地球温暖化防止実行計画」を自主的に策定・推進しています。環境負荷の低い「エコオフィス」の実現に向けて、職員が主体的かつ積極的に取り組んでいます。

和光市エコオフィス推進委員会は、和光市地球温暖化防止実行計画等に基づき、市役所のエコ化と職員の意識啓発を目指して設置された委員会です。実務レベルの職員が各部署から集まり、市役所の活動や施設を分析し、執務室のこまめな温度調節の仕組みづくり、照明の管理、OA機器の省エネモードの設定、ごみダイエット・レジ袋の削減、水かけまつり、自転車市役所の推進など、具体的かつきめ細かな環境負荷低減策を毎年実施しています。

平成23年度においても新たに公共施設（公設公営保育園）への積極的な壁面緑化の推進を予算化するなど、若手職員の声は積極的に生かされ、市役所独自の施策として環境負荷の低減に貢献しています。また、若手職員がエコオフィスを意識して市庁

舎内をくまなく点検することは、それぞれの職員が職場の全体像を知ることにもつながり、職員研修としても成果を上げています。

今後の方向性としては、外部機関による何らかの認証があったほうが良いという市民の意見もあることから、自主的な対応に固執することなく、費用対効果の高い仕組みを選択していきたいと考えています。

(3) 雨水貯留槽を家庭に設置し、雨水の活用を図る

和光市では今年度から、あらたに家庭用雨水貯留槽を設置するご家庭への補助制度を導入しました。この背景には急傾斜地が多い当市において、昨今のヒートアイランド現象等が要因とみられる都市型豪雨による



家庭用雨水貯留槽

内水氾濫が危惧される状況があります。開発の進展により、降った雨が地中に浸透しにくくなってきています。もちろん、雨水管の増設や新設、調整池の設置も行っていますが、併せて各家庭でも少しずつ降雨を受け止めていただくことを目指しています。貯留槽のもう一つの利点は、貯めた水の活用にあります。当市は自主水源として深井戸を保持しておりますが、汲み上げの規制等があり水源の約3割をカバーするにすぎません。貯留槽の水を庭への散水にご活用いただくことで節水にも役立てることができ、一石三鳥です。今年度は50軒分の予算を確保したにとどまり、対象も戸建て住宅に絞っておりますが、将来的には集合住宅における、より規模の大きい雨水利用のモデルケースを構築し、まち全体で雨水を活用するとともに、積極的に雨水の地下浸透を図り、地下水の涵養を推進しなければならないと考えております。

このように、雨水をどのように受け止め、活用するか、また、地下に浸透させるかは、湧水とそれを取り巻く自然環境を地域の大切な資産と考える当市にとり、重要な課題であることから、雨水利用の先進自治体である東京都墨田区を中心とする雨水ネットワークに参加し、情報収集に努めることとしました。

4. 終わりに

東日本大震災であらためて我々が気付かされたのは、毎日長距離を通勤通学することのリスクであり、これまで何となく受け入れられてきたエネルギーや水資源に関する常識の危うさです。幸い、和光市は都心部からの距離が近く、市域も狭いという特徴を有しています。当市のコンパクトさ、市民との距離の近さを生かして、一つ一つの施策を市民とともに考えていくことで和光らしい環境施策を推進していきたいと考えています。

環境教育プロジェクト 「守ろう地球のたからもの」

三菱東京UFJ銀行は、2008年度より三菱UFJフィナンシャル・グループ、公益財団法人三菱UFJ環境財団及び公益社団法人日本ユネスコ協会連盟と協働で、「守ろう地球のたからもの」プロジェクトを実施しています。このプロジェクトは、人類共通の“たからもの”を未来へ引き継いでいくための取り組みとして、「学び」「気づき」「行動」の機会を提供しております。



子どもたちに「学び」「気づき」「行動」の機会を提供。地球を愛する心を育む。

学 び

子どもたちが楽しく環境問題について総合的に学べる小学校高学年から高校生向けの教材を宮城教育大学、奈良教育大学とともに制作し、全国の学校に寄贈しています。



気 づ き

自然に接し、その美しさ、大切さを知ってほしいという趣旨から「みどりの絵」を画題とした作品を募集する「みどりの絵コンクール」を開催しています。2012年度、37回目を迎えるこのコンクールは、毎年約3万人の児童から応募があり、これまでに累計約120万点の作品が寄せられています。



行 動

世界遺産「白神山地」の豊かな緑の大地を未来の子どもたちに引き継いでいくために、地域の方々と協力して、白神山地周辺地域での植樹活動に取り組んでいます。プロジェクト開始から5年間で、ブナやミズナラなど累計10万本の苗木を植樹し、これまでに約500名の社員が参加しています。



今後も三菱東京UFJ銀行は、環境問題への取り組みとともに、次世代社会の担い手育成に取り組んでいきます。

「守ろう地球のたからもの」ホームページ <http://www.unesco-esd.jp/>

UNEP Supporters



持続可能な社会をめざして

私たちは  UNEP (国連環境計画) の活動をサポートします。

特別協賛サポーター

(五十音順)

 キヤノン株式会社

 キリンビール株式会社

 杉田エース株式会社

 T&D 保険グループ

 太陽生命  Daijido 大同生命  T&Dフィナンシャル生命

 東急不動産

 東レ株式会社

 NITTO DENKOC 日東電工株式会社

 JPR 日本パレットレンタル株式会社

 BAYER パイエルホールディング株式会社

 FUJIFILM 富士フイルム株式会社

 MITSUBISHI PAPER MILLS LIMITED 三菱製紙株式会社

 MUFG 三菱東京UFJ銀行

 連合 JTUC

環境関連協賛サポーター

(五十音順)

 INQVEX インキュベクス株式会社

 株式会社 エッチアールデイ

 TOSHIN 株式会社 トーシンコーポレーション

 budori 株式会社 budori

Aiming at sustainable society

We support the work of  UNEP (United Nations Environment Programme)

ビッグ・アイデア Big ideas

2011年夏、アゼルバイジャン大統領の長女であるレイラ・アリエフさんは、持続可能な開発をめざす世界的な活動に若者が積極的に参加する場として、「環境活動のための国際対話 (IDEA)」を立ち上げた。さらに詳しく知るため、本誌は彼女に話を聞いた。

アゼルバイジャンの自然環境と、あなたが最も保護に力を入れているものについて、お聞かせください。

現代の若者たちは、世界の将来や、環境問題の持つ意味、そして人間が気候変動の一因であることについて、関心を持つべきだと思います。わたしたちは皆、この地球に対する責任を負っています。そして、わたしたちの生活を健全にするだけでなく、面白くて彩り豊かにしてくれるすべてのものを守るために、力を尽くさなければならないのです。

世界には11種類の気候帯がありますが、アゼルバイジャンはそのうちの9種類を有する珍しい国です。この国には、活火山、希少な樹木、頂上を雪で覆われた山々、青々とした森林、大平原、そして世界最大の湖であるカスピ海に注ぎ込む川があります。わたしたちの最重要課題のひとつ、それは動物の保護です。だからこそIDEAの運動は、「コーカサスのビッグファイブ」——クマ、ワシ、オオカミ、ガゼル、ヒョウ——の健全な生存を確保するという決意を持って行われているのです。

あなたがIDEAを立ち上げようと思ったのは、そのためですか？

まさにそのとおりです！ わたしたちの国は天然の石油やガスの埋蔵量に恵まれています。生態学的には脆弱です。わたしは、無制限な産業開発によって損害がもたらされるのを目にしてきました。そこで、この国の急速な開発が、貴重な環境とわたしたち国民の未来を確実に守るものとなるよう、懸命に取り組んでいるのです。今すぐに行動しなければ、皆が依存している土地や水は気候変動によって様変わりしてしまい、わたしたちの子どもや孫たちには、まったく違った世界が残されることになるでしょう。

世界の若者たちに重点を置くことが、なぜIDEAにとって重要なのでしょうか？

IDEAは地域のイニシアティブとして発足したのですが、世界的な活動にまで発展しました。アゼルバイジャンの若い人々は環境に対して熱心で、事態が差し迫っていることを理解しています。IDEAでは、教訓を共有したり、優れた取り組みのモデルを確立したりすることによって、着実に人々の意識を高めることができると考えています。持続可能な未来を実現するためには、結局のところ——ひとつの国だけでなく、地球中で——考え方を改めるしかないのです。



Photos: <http://ideacampaign.org>

IDEAについて知ってもらうために、ソーシャルネットワークやインターネットの力をどのように活用していますか？

かつて、人々は地理や文化、考え方によって区別されていましたが、今はかつてないほどの規模でつながりを持ちつつあります。ソーシャルメディアには、環境活動を引き起こし、意識レベルを大幅に向上させ、協力や話し合い、実現可能な解決策を促すうえで役立つ可能性があるのです。IDEAでは、あらゆるソーシャルメディアのツールを利用して、率直な対話に参加したり、実際の行動に関する情報やインスピレーションを提供し、呼びかけたりすることによって、バーチャルコミュニティを作っています。わたしたちは、すべての人が自分たちの地域社会における環境リーダーになれるよう、力づけたいと思っています。

わたしたちが期待するような大きな活動やイベントはありますか？

2012年には、大きな企画がいくつもあります。そのひとつが、コーカサス地方とアゼルバイジャンに生息する絶滅危惧種の問題に対する注目を集めるために、ヨーロッパのいくつかの国々で開催する「コーカサスのビッグファイブ」に関する絵画展です。

また、世界的に有名なフォトジャーナリストのレザ・デジャティ氏と協力して、子どもたちのための環境に関する季刊誌を、アゼルバイジャン語と英語で発行しています。レザ氏は「EYE DEJA」という国際的な写真コンテストも開催し、ヨーロッパ各地、そしてリオ+20の期間中にはリオデジャネイロの路上で、写真を展示する予定です。

さらにわたしたちは、エッセイコンテスト——「リオ+20にメッセージを」——も開催し、サミットや持続可能な開発をめぐる問題と課題について学んでくれるよう若い人々に働きかけました。このように、数多くの企画が進行中です。

本誌の読者がIDEAに参加することはできるのでしょうか？

わたしたちが抱える環境問題は、現在のいかなる解決策でもかなわないほど重大であり、わたしはそのことが気がかりです。あらゆる活動の成功は、他者からの支援にかかっています。ですから、この難題を受け入れ、わたしたちの活動に参加してください。IDEAのウェブサイト (<http://ideacampaign.org>) に登録するだけで、仲間入りできます——やるべきことは山ほどあります！ わたしたちには、たったひとつの地球、たったひとつの未来しかないのです。

